

## 2-3. 普天間飛行場跡地内の地権者及び跡地周辺の市民への取組み

取組み方針①：市民、学生、地権者、若手の会に対し、普天間飛行場跡地利用について学習する機会を提供し、将来のまちづくりにおける人材育成に繋げる。

取組み方針②：先進地のまちづくり事例を習得し、知見の習得を図る。

取組み方針③：跡地利用に関する情報や取組みについて周知を図るため、全世代を対象としたパネル展を開催する。

取組み方針④：市民に対し、各種取組み内容を分かりやすく伝え、跡地利用への興味・関心の向上を図る。

### (1) 地権者・市民への合意形成・情報発信に関する取組みの企画・開催 (まちづくり講座の開催)

#### 1) 開催概要

##### ①目的

市民、学生、地権者、若手の会等に対して、普天間飛行場跡地利用に関する学習の機会を提供するとともに、跡地利用に対する関心を高め、合意形成活動への積極的参加を促すことを目的として、まちづくり講座を実施する。

##### ②テーマ

令和2～6年度の共通テーマ：

周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ

- ・ 今回の講座では、普天間飛行場の跡地利用全体を対象に検討するのではなく、現段階における普天間飛行場を見据えたまちづくりのスタートとして、「周辺市街地における身近な地域まちづくり」を対象とする。
- ・ 普天間飛行場跡地利用の実現に向けて、跡地利用で目指す取組みを“今から”周辺市街地で実証・実践し、返還後の跡地における実現に向けた課題を明らかにするとともに、周辺市街地で跡地利用を見据えた新しいまちづくりを考える。
- ・ 「跡地利用で目指す取組み」
  - みどりの中のまちづくり⇒公有地・民有地の一体的な活用
  - ⇒公共空間（公園・道路・広場等）の利活用
  - 周辺市街地整備との連携
- ・ さらに、まちづくり全般において、地権者、市民及び学生が、普天間飛行場跡地利用の将来像を考えるきっかけづくりとする。

### ③実施内容

沖縄国際大学2年生の演習授業を活用し、普天間飛行場の跡地利用を見据えた周辺市街地における身近なまちづくりを考えることをテーマに、地域の関係者へのインタビューを行い、まちづくりの企画を考える。

企画提案発表会では、普天間飛行場跡地のまちづくりに向けて、各グループが考えてきたまちづくりの企画提案内容を発表する。

### ④狙い

～未来志向型のまちづくりの取組み企画づくり（グループ単位での企画提案）～

#### ■宜野湾市

- ・まちづくりの人材育成
- ・普天間飛行場跡地利用への関心を高める
- ・継続してまちづくりに興味を持ってもらう

#### ■大学生

- ・まちづくりについて知ってもらう
- ・地域住民等との交流（外部へのインタビュー等の経験取得）
- ・グループでのプロジェクト企画作成のプロセスを学ぶ

### ⑤演習授業

- ・対象学科は地域行政学科
- ・演習の目的：専門に入る前の導入と基礎技術（調査・フィールドワーク・発表等）の習得
- ・対象クラス：2年生（2クラス[16～17人×2クラス=33人]  
柴田講師：行政法  
野添教授：外交史
- ・基礎演習Ⅱ：火曜4限（14:40～16:10）
- ・上江洲教授はオブザーバー参加
- ・1コマ90分（連絡等を除くと実質60～70分）

### ⑥グループ分けと発表テーマ等

クラス名	テーマ	人数
柴田講師A	● 地域資源を活かして普天間を活性化	6名
柴田講師B	● 賑わいと交通環境が調和するまちづくり	5名
柴田講師C	● 賑わいのある集約型都市づくり	5名
野添教授A	● 賑わいのある集約型都市づくり	6名
野添教授B	● 地域資源を活かした地区イベントで交通渋滞緩和！	6名
野添教授C	● 地域資源を活かした都市づくり	5名

### ⑦企画提案発表会

開催日時：令和6年12月17日（火）14：00～17：20

会場：沖縄国際大学 厚生会館ホール（4階）

プログラム：第1部 学生による発表「まちづくりの企画提案」6グループ

第2部 「若者が地域に関わるまちづくり」

## ⑧受講生アンケート※企画提案発表会後実施

企画提案発表会の後、来場者及び発表した学生に対するアンケート調査を実施した。

### 2) 実施結果

#### ①演習授業

日付	内容	各回のアウトプット
10月8日	○講座の趣旨、スケジュール、これまでのまちづくり講座 ○宜野湾市のまちづくりと普天間飛行場跡地利用について ～検討テーマの提示～ ○グループ分けとテーマ決め	自分のグループがどの検討テーマを選択したか 選択した理由をグループごとに発表・提出
10月15日	休講	—
10月22日	○設定したテーマ（課題）の深掘り調査 ～「地域の課題は何か」を具体的に考える～ ○テーマに応じた具体的なゴールを思い描く ～具体のターゲットを想定し、課題を解決した将来を考える～	地域の課題の深掘りで分かったことを発表・提出
10月29日	○課題を解決する具体のアイデア検討 ～いつ、どこで、何を、誰が行う取組みか具体的に考える～ ○フィールドワークで明らかにしたいことの整理 ～想定した課題の実態と原因の把握、解決アイデアの実施に向けた懸念事項を明らかにする ⇒その為に「誰」に聞くか～	事務局が作成したワークシートを埋めるためのグループで話し合い ✓具体的なゴールと解決のための取組みアイデアを発表・提出 ✓フィールドワークで聞きたいことと、それを聞くフィールドワーク先を発表・提出
11月5日	○フィールドワーク先の検討と段取りの確認 ○フィールドワーク先への質問事項の整理 ○具体的課題解決のためのアイデアを実施する際の収益やコストの検討	フィールドワーク先への質問事項と具体の取組みアイデアに対する収益やコスト面で検討した内容を提出（発表は無し）
11月12日	○フィールドワークの実施	フィールドワーク実施の可否を報告
11月19日	○課題と解決アイデアに対するフィールドワークを踏まえたブラッシュアップ ○発表準備	フィールドワークから分かったこととそれを踏まえて検討することを授業の前半で発表&発表内容を提出
11月26日	○発表資料の作成とプレゼン準備 ☑ 設定した課題とその解釈	プレゼンのパワーポイント資料（暫定版）を提出
12月3日	☑ 課題を解決し目指すゴール（将来像）は何か ☑ 課題解決に向けた具体的な取組みアイデア	授業は休講
12月10日	☑ フィールドワーク結果 ☑ 取組み実施するにあたってのハードルや収益・コストの考え方	プレゼンのパワーポイント資料（最終版）を提出
12月17日	○企画提案発表会（@沖縄国際大学厚生会館）	発表時のプレゼン資料

## ②企画提案発表会

- 開催日時：令和6年12月17日(火) 14:00~17:20
- 会場：沖縄国際大学 厚生会館ホール(4階)
- プログラム：第1部 学生による発表「まちづくりの企画提案」6グループ  
第2部「若者が地域に関わるまちづくり」  
ゲストスピーカー宋俊煥氏、ナビゲーター堀江佑典
- 参加人数：130名(受講生33名・一般・学生97名) ※先生、事務局除く

### ②-1. 出演者

【第1部学生による発表「まちづくりの企画提案」】

- ・沖縄国際大学2年生

【第2部「若者が地域に関わるまちづくり」】

- ・ゲストスピーカー宋俊煥氏、ナビゲーター堀江佑典氏

宋 俊煥 氏 (そん・じゅんふあん)

山口大学大学院創成科学研究科 工学系学域 感性デザイン分野  
建築学専攻 准教授

専門はアーバンデザイン・エリアマネジメント・低未利用地活用・人口減少都市の都市(地域)再生。2019年4月から山口大学大学院創成科学研究科建築学コース准教授(工学部感性デザイン工学科担当)。実践研究活動として、学生主体で地域のまちづくりに取り組む活動の支援を精力的に行っている。「若者クリエイティブコンテナ(宇部)」代表、まちづくり会社「にぎわい宇部」非常勤取締役等)

### ②-2. プログラム

【タイムテーブル】

- 14:00~14:05 開会 (宜野湾市)
- 14:05~16:00 第1部 学生による発表(4グループ)  
「まちづくりの企画提案」
- 16:00~16:10 ~休憩~
- 16:10~16:40 第2部 ゲストスピーカーによる講演  
「若者が地域に関わるまちづくり」  
ゲストスピーカー 山口大学 宋 准教授  
ナビゲーター 堀江佑典
- 16:40~16:55 質疑応答
- 16:55~17:00 閉会 (宜野湾市)

②-3. チラシ

宜野湾市ホームページやSNSへの掲載による市民への周知、若手の会、大学生（沖縄国際大学）、宜野湾市の職員や関係機関等へ周知を行った。

沖縄国際大学×宜野湾市まちづくり講座コラボ企画 2024

## 沖縄国際大学生が考える 普天間飛行場の跡地利用を見据えた周辺のまちづくり 企画提案発表会



普天間飛行場は全面返還が合意され、跡地のまちづくりが求められています。私たち沖縄国際大学生は、普天間飛行場の跡地利用を見据え、周辺市街地における身近なまちづくりを考えることをテーマに、2か月にわたり演習授業を通じてグループでまちづくりの企画を考えてきました。未来のまちづくりに向けた企画を提案し発表します。ぜひご参加ください！

**参加費  
無料**

2024年

**日時** 12/17(火) 事前申し込み不要  
どなたでも参加OK!

14時00分～17時20分(開場13時40分)

**会場** 沖縄国際大学 厚生会館ホール(4階)

専用の駐車場は設けておりませんので、**駐車場が満車**となることが想定されます。ご面倒をおかけいたしますが、**公共交通機関でのご来場**をお願いいたします。ご理解賜りますようよろしくお願いいたします。



バス停: 沖縄国際大前

### プログラム

**第1部** 14:00～16:35  
学生による発表  
「まちづくりの企画提案」

**第2部** 16:40～17:20  
ゲストスピーカーによる講演  
「若者が地域に関わるまちづくり」

### ゲストスピーカー

せん じゅんふん  
**講師 宋俊煥氏**

山口大学 大学院創成科学研究科  
工学系学域 感性デザイン分野  
建築学専攻 教授

低未利用地活用など。2016年頃より山口県宇部市の中心市街地において公共空間を利活用した地域活性化に携わり、現在、「若者クリエイティブコンテナ(宇部)」代表等を務める。

ナビゲーター

ほりえ ゆうすけ  
**堀江佑典氏**

昭和株式会社 営業開発室 室長  
北海道科学大学 客員教授  
日本都市計画家協会 理事

主催: 宜野湾市まち未来課  
問い合わせ: 昭和株式会社(河村・池村) TEL 098-876-5107

図：企画提案発表会案内チラシ

②-4. 発表会結果

【第1部 学生による発表「まちづくりの企画提案」】

クラス名	テーマ	企画内容	人数
柴田講師 A	地域資源を活かして 普天間を活性化	● スタンプラリーを実施し、グリーンベル通り・ ぎのわんヒルズ通りを歩いて回ること でシャッター街の存在や現状について周知を図る 等	6名
柴田講師 B	賑わいと交通環境が 調和するまちづくり	● コミュニティバスの実証実験と併せた地域の 人が集まる・買う・学ぶ・体験イベント 等	5名
柴田講師 C	賑わいのある集約型 都市づくり	● 防災ウォーク	5名
野添教授 A	賑わいのある集約型 都市づくり	● 中・高・大学生を対象とした、小学校などの教 室を活用したカフェや居酒屋の開催 等	6名
野添教授 B	地域資源を活かした 地区イベントで交通 渋滞緩和！	● 企業と沖国生、琉大生が主体となる「沖縄国際 大学と琉球大学の合同学園祭」を開催する 等	6名
野添教授 C	地域資源を活かした 都市づくり	● タイモに関するクイズ大会 ● タイモ料理選手権 ● タイモ料理教室の開催 等	5名

【第2部 「若者が地域に関わるまちづくり」】

[ 講座の主なポイント ]

～学生が主体となって取組むまちづくりについて～

- ① 未利用地を活用したイベントの開催
- ② 地域の移動手段としたレンタサイクルの実証実験
- ③ 市内大学と連携した交流イベント（合同学園祭）
- ④ 小さなできることを続けていくことで「小さなまちづくり」から「大きなまちづくり」に繋がっていく。まずは小さな取組みから行うことが大事である。

## ②-5. 発表会スライド

[柴田講師Aグループ]

# 柴田Aグループ

新田修斗、和宇慶太晴、宮里侑希、濱川明珠、照屋秀伍、宮里友輔

## 目次

- 1 背景
- 2 設定したテーマ
- 3 地域の現状と課題
- 4 企画概要
- 5 フィールドワーク
- 6 結果
- 7 企画詳細
- 8 所感

## 背景

・宜野湾市には沖縄国際大学、隣接して琉球大学があるため学生が集まりやすい

⇒学生が多いという地域資源を活かして、学生が挑戦・活躍できる企画を実施していきたい！



## もう一つの背景

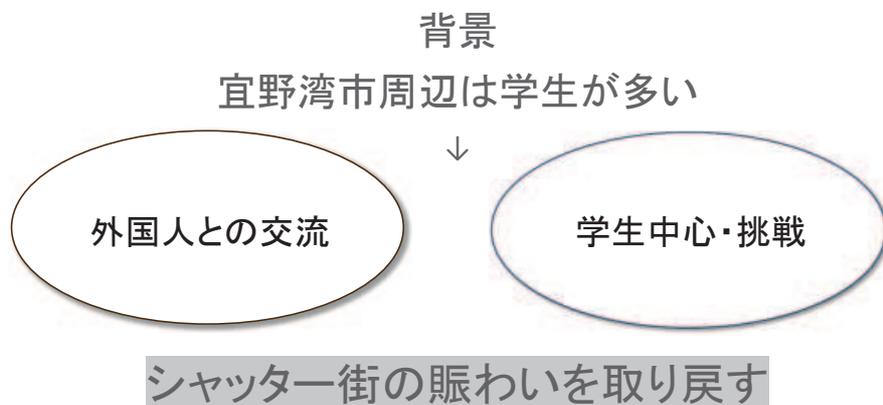
・宜野湾市には基地がある、外国人が多い

⇒簡単に海外の人、文化の交流が可能な環境である



## 設定したまちづくりのテーマ

---



## 設置したまちづくりのテーマ

---

「地域資源を活かして普天間を活性化」

## 対象地域

宜野湾市 北地区(グリーンベル通り・ぎのわんヒルズ通り)



- ・普天満宮など歴史、文化資源がある
  - ・以前は商店街として賑わっていた
  - ・国際色豊かな店舗が多数並んでいる
- 多くの外国人客が来店

## 地域の現状と課題

### 現状

・開いてるお店はまばらにあった

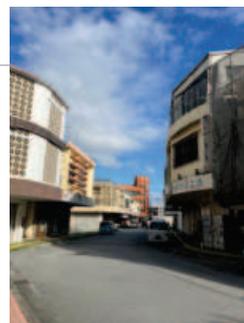
高齢化・老朽化

リウボウやサンエー等店舗の開設



シャッター街が目立つように

・歩いてる人は少なく、カフェや近隣のお店に  
目的がある人や地元住民のみ



## 地域の現状と課題

### 課題

- ・駐車場がなく、お店に入るハードルが高い
  - 以前は路駐可能だったが新しく病院が建設されたことや、地域住民への支障が多く発生したため、禁止になった
  - 住宅街やお店があり、駐車場のために土地を開くことも困難



## 企画概要

地域の活性化をするために...

スタンプラリーを実施し、  
グリーンベル通り・ぎのわんヒルズ通りを  
歩いて回ることによってシャッター街の存在・現状を  
**認知**してもらう

## 企画概要

**頻度**  
・年に一回程度

**時期**  
・なるべく寒い時期  
(10月・11月)



**会場**  
・グリーンベル通り  
・ぎのわんヒルズ通り  
・普天満宮前広場

**ターゲット**  
・地域の方  
・米軍基地の方

## 企画概要

### 企画内容

- ・スタンプラリーを通じて地域の店やシャッター街に興味を持ってもらう
- ・駐車場は、宜野湾市役所向かいの上下水道局の駐車場からシャトルバスを運行する



実施主体： 学生、既存の店の方  
支援者： 行政、商店街

## フィールドワーク(取材)

取材先:フラップコーヒー(グリーンベル通り)

質問	回答
外国客が多い曜日	休日、祝日
外国客が多い時間帯	朝、土日はオープンしてからのモーニングの時間
人通りが多い時間帯	グリーンベル通りに人が少ない
類似のお店はあるか	カフェは多い、大通りにはファストフード
訪れる客層(国関係なし)	客層は広め

## フィールドワーク(取材)

取材先:バーガーベア(ぎのわんヒルズ通り)

質問	回答
客層	来客のほとんどは基地からの海外客 お店の従業員も海外の方が多い
外国客が多い曜日	土日、祝日

## フィールドワーク(取材)

取材先: RIDER'S & GARAGE

質問	回答
外国客は訪れるか	軍人をはじめとする外国客が多い お店の雰囲気が海外の方が好みやすい外装
外国客が多い曜日	土日、祝日
外国客が多い時間帯	ランチ、ディナー
客層	客層は広め(カップル、ファミリー、シニア)
人通りが多い時間帯	中道にあるお店だから人通りが少ない

## フィールドワーク(取材)

取材先: ぎのわんヒルズ通り 通り会会長

- ・ヒルズ通りには: 普天間基地内・海軍病院内の人も多く訪れる
  - ・客層は: 地元客7割・観光客2割・米軍1割
- ⇒移動手段は主に車・レンタカー
- ・商店街について: 20年前頃から普天間通り会や地元の商店街が休業し始めていたが、9年前からぎのわんヒルズ通りとして復活
- ⇒現在は地元の人だけでなく、他地域から来た人も営業しており  
活性化に協力

## フィールドワーク(取材)結果

取材から...イベントの**実現は可能!**

### ■イベントをする上で

- ・交通面への苦情など問題が発生しないよう事前に周辺住民に告知、報告が必要(許可証を取るなど事前準備で苦情対策)
- ・チラシ・SNS・ラジオ等を利用しイベントを宣伝

通り会があることで、周辺店舗への協力案内など情報の発信源(窓口)となり、イベント開催の実現性を高めている!

## 企画詳細(前日までに)

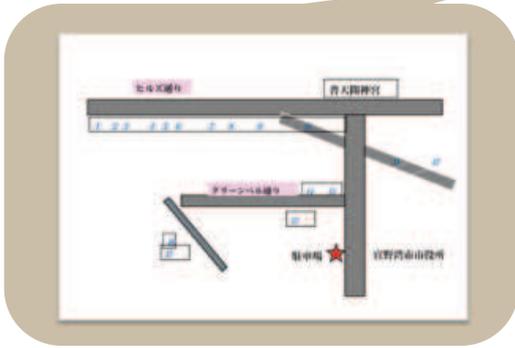
- ①各店舗に協力依頼
- ②駐車場・シャトルバスの運営準備
- ③スタンプラリーを行うため  
周囲にポスターを用いて宣伝
- ④各店舗前にスタンプを設置



## 企画詳細(当日)

⑤シャトルバス乗り場or広場で

参加者のリストバンド ・マップ ・スタンプ台紙 を配布する



## スタンプラリー対応店

- ① burger bears diner    ② siunaus sweets    ③ オートガレージ
- ④ stickywich    ⑤ zumicafe    ⑥ chillout    ⑦ カーベットハウス
- ⑧ さんルームスイーツ    ⑨ ベトナムマーリー    ⑩ カフェオーリンズ
- ⑪ オリーブオイル fresco    ⑫ ライダースカフェ    ⑬ flapcoffee
- ⑭ 中央ミート    ⑮ cafune    ⑯ かりゆし21    ⑰ anela

17店舗に  
協力してもらう予定!



## 企画詳細(後日)

---

### ■どのように生かせるか

- ・イベントを行うことで、現状の認知、さらに地域活性化を促し基地返還後の国際色豊かなまちづくりへと繋げる
- ・リストバンド、スタンプラリー台紙を回収し集計、次回の企画の参考資料に(アンケート協力も依頼)

### ■どのような効果が考えられるか

- ・周辺店舗の収益増加、町の賑わいを取り戻す

## 実施に向けた今後の課題

---

- ・イベントのメイン会場は賑わうが離れた場所は賑わいが少なくなるため、全部の場所で平等な賑わいを得るのは難しい  
→実施する場所でシークレットやポイント倍など特別なエリアを作る
- ・集客は本当に招けるの？  
→通り会会長に協力を得て、海軍病院に掲載してもらうことが可能  
ポスターも英語で英訳する⇒関心を持ってもらえる



## 企画者の所感

- ・地域資源を活かしたスタンプラリーの実施が地域活性の促進につながる
- ・大学が二つあり、外国籍の方が多いことは他の地域にはない独自の地域資源
- ・ぎのわんヒルズ通りやグリーンベル通りは、独特な店が多いがそもそも認知されていない為、来客者数が少ない
- ・学生主体のスタンプラリーがシャッター街の認知と、基地返還後の外国籍の方の居場所づくりに繋がる
- ・駐車場問題の解決がイベント終了後の町の賑わいに直結する

ご静聴ありがとうございました！



[柴田講師Aグループ]

【講評】

発言者	内容
宋先生	すぐ実行できそうな企画で驚いた。寒いシーズンに開催するとのことだが、何月頃を予定しているのか。
柴田講師Aグループ	スタンプラリーのメイン会場となるヒルズ通りは全長3kmあるので、歩いても涼しい季節で10月中旬あたりを考えている。
宋先生	シャトルバスの運行以外であれば、学生でも実施できると思う。シャトルバスがないとイベントの実施は難しいのではないか。
柴田講師Aグループ	沖縄県民は歩くことが得意ではないので、スタンプラリーをしてメイン会場に集まるまでに疲れてしまわないか懸念がある。
宋先生	店舗にも協力していただき、ぜひ実施してほしい。 店舗のマップをしっかり作成するとよいと思う。

# 賑わいと交通環境が調和 するまちづくり

柴田講師Bグループ

## 目次 contents

1. 宜野湾市の交通状況について
2. コミュニティバス
3. 企画詳細
4. まとめ

## 宜野湾市内の交通課題について

交通渋滞

交通弱者  
の増加

西海岸エリアの移動  
バス路線のギャップ

## 宜野湾市内の交通課題について

# 交通渋滞



宜野湾市内の交通課題について

# 交通弱者の増加

### 交通弱者の増加

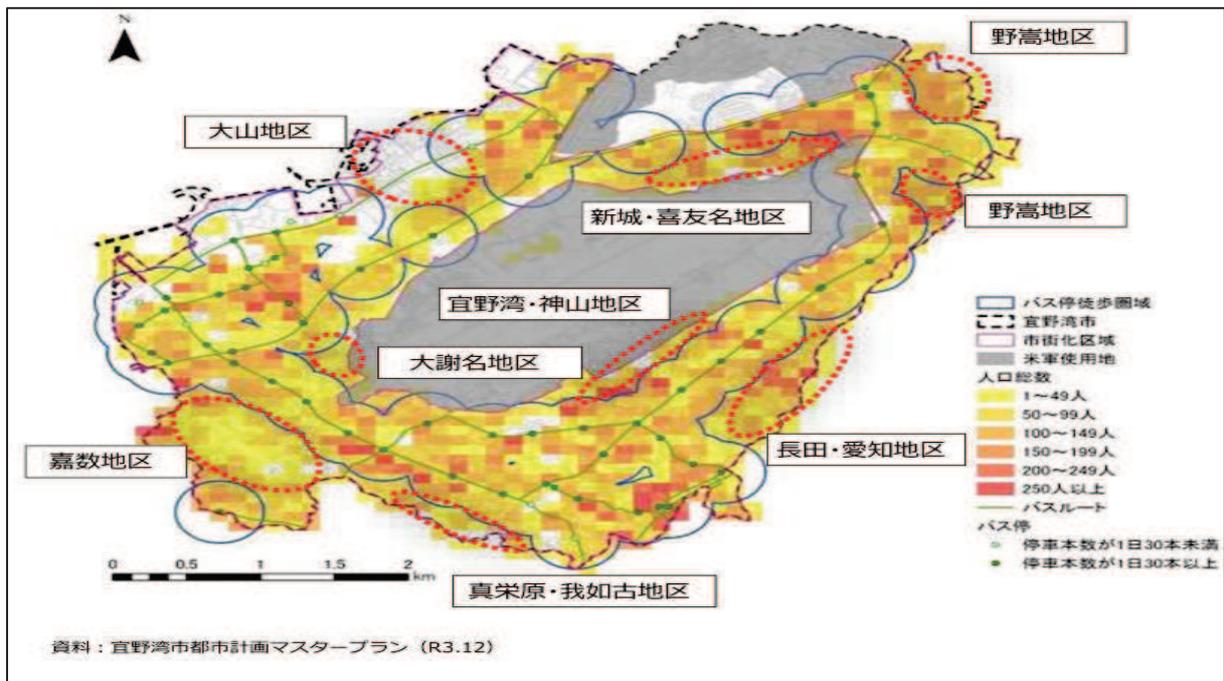
気軽に買い物  
ができない

行きたいところ  
にいけない

バス停が遠い

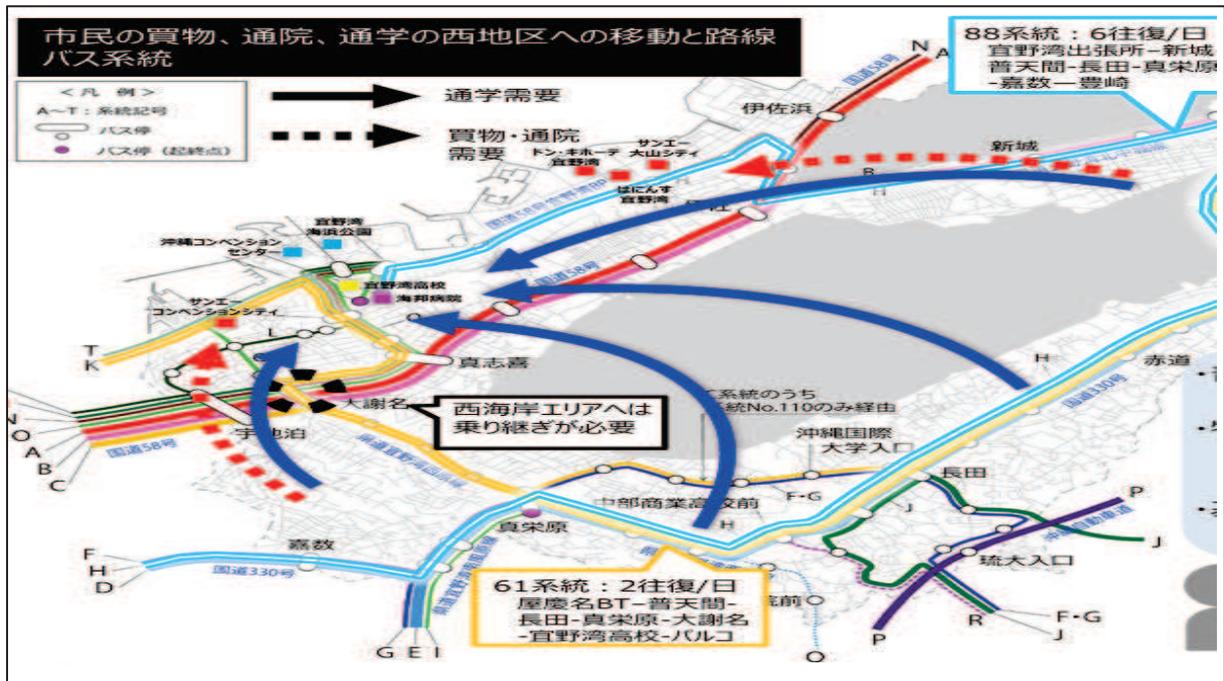


The illustration shows an elderly man with a cane and an elderly woman standing together. Three speech bubbles around them contain the text: '気軽に買い物ができない' (Can't buy things easily), '行きたいところにいけない' (Can't go to the places I want to go), and 'バス停が遠い' (Bus stop is far).



宜野湾市内の交通課題について

# 西海岸エリアの移動 バス路線のギャップ



宜野湾市内の交通課題について

**交通渋滞**

**交通困難者の増加**

西海岸エリアの移動とバス路線のギャップ

**コミュニティバスの導入**

## 【コミュニティバス導入のメリット】

### ①交通弱者等の生活の質の維持、向上

自家用車を運転できない交通弱者や、運転に不安がある方の日常生活及び社会生活に**必要な移動手段を確保**することで、生活の質の**維持・向上**を目指す。

## 【コミュニティバス導入のメリット】

### ②交通空白地域の改善・解消

どの地域に住む市民でもコミュニティバスを通して外出できるよう、**公共交通空白地域の改善・解消**を図りつつ、市民生活に密着した施設へアクセスの充実を目指す

## 【コミュニティバス導入のメリット】

### ③観光客の移動の利便性・回遊性向上

便利で利用しやすい公共交通は、観光振興の基盤として重要であり、観光資源をつなぐコミュニティバスの導入によって  
**観光客の移動の利便性・快適性の向上**を目指す。

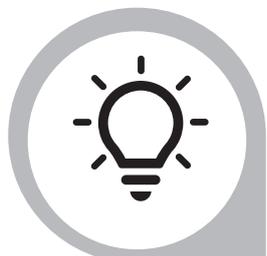
## 【コミュニティバス導入のメリット】

### ④公共交通全体の活性化

コミュニティバスと路線バスの共存・連携と役割分担により、全面的な公共交通ネットワークを形成し、**市内の公共交通全体の活性化**を促すことを目指す。

## 地域のイベントと連携すると...

コミュニティバス  
認知度向上



バス利用体験の促進

実証実験データの  
収集と分析に役立つ



コミュニケーション  
の場を提供

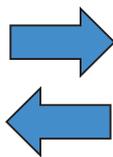
### ・企画詳細

・開催日

2025年5月5日

・主催者

宜野湾市



学生

## フィールドワーク

### 📍 宜野湾市役所

- ・ 施設管理課
- ・ 都市計画課

## 施設管理課

Q

イベントを開催時の留意点は？

イベントを行うときは許可が必要。  
張り紙の制限あり。

Q

イベントをやるときの費用は？

面積で決まる。  
1平方メートルあたり**15円**。

## 都市計画課

Q

交通の問題点は？

道が細く歩道がない。  
バス停までの距離が長い→公共交通空白地域

Q

コミュニティバス等の必要性は？

必要性はある。  
実際に住民からの声あり。

いこいの市民パーク管理者に利用申請



宜野湾市役所、イベント主催者、バス会社、出店する店と協議



社会実験実施

## 実証実験にかかる費用や人材の確保について

### ①スポンサーを募る

→宜野湾市内や県内企業に企画を売り込みスポンサーを募る。

### ②クラウドファンディング

→企業以外にも協力してくれる方にお金を募る

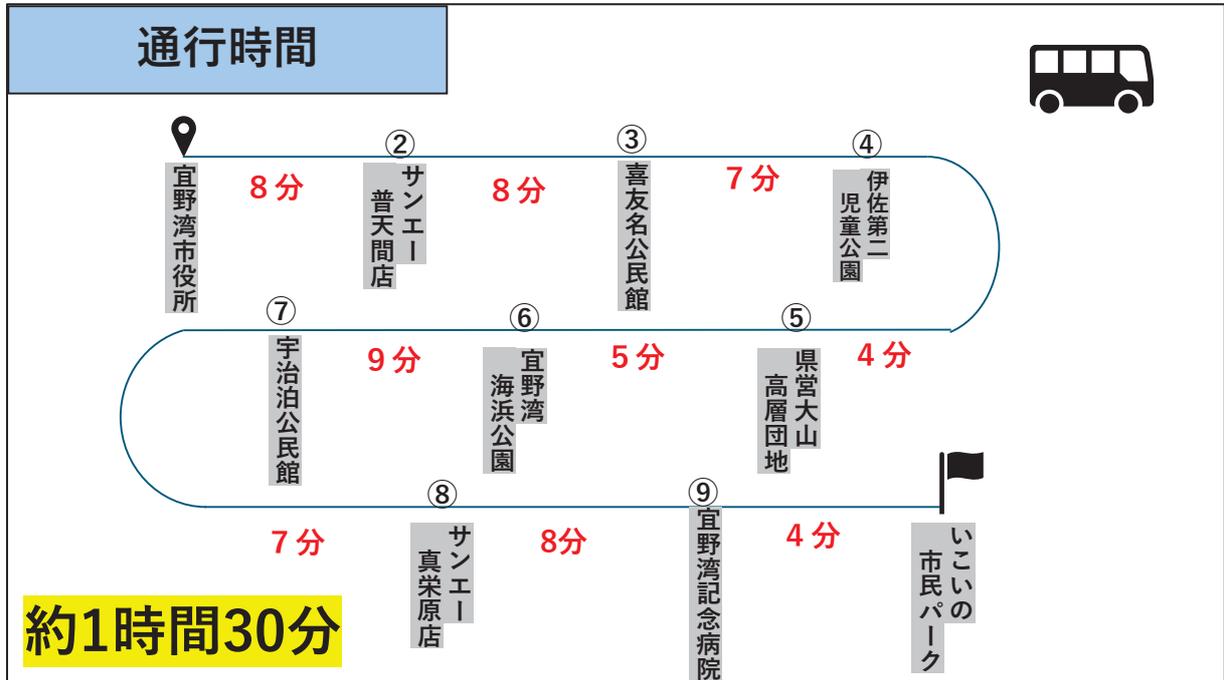
## 実証実験にかかる費用や人材の確保について

### ③ボランティアを募集する

→大学生を中心にボランティアを募りイベントの運営を一緒にする

### ④バイトを募集する

→大型自動車第二種免許を持ち、バスの運転経験ある人を募集する。



# ルート説明【Bコース】



## 通行時間



・企画詳細

料金

無料

※実証実験後は有料化

・企画詳細

予算管理



コミュニティの運営には予算が必要。実証実験中に運行経費と持続可能性を慎重に評価する。

バス停の配置



利用者の利便性を最大化するため、バス停は市内主要スポットに設置する。

運行時間の設定



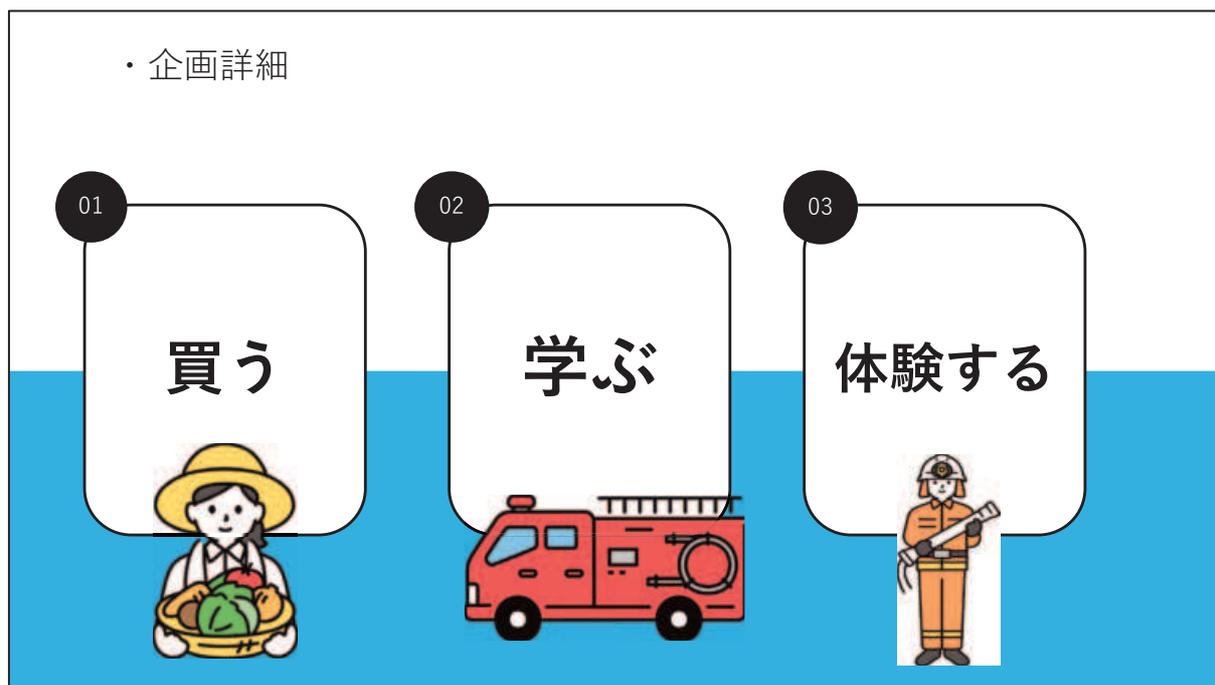
効果的な運行時間を設定し、市民の出勤通学時間に合わせて運行時間を調整する。

得られたデータを、、、

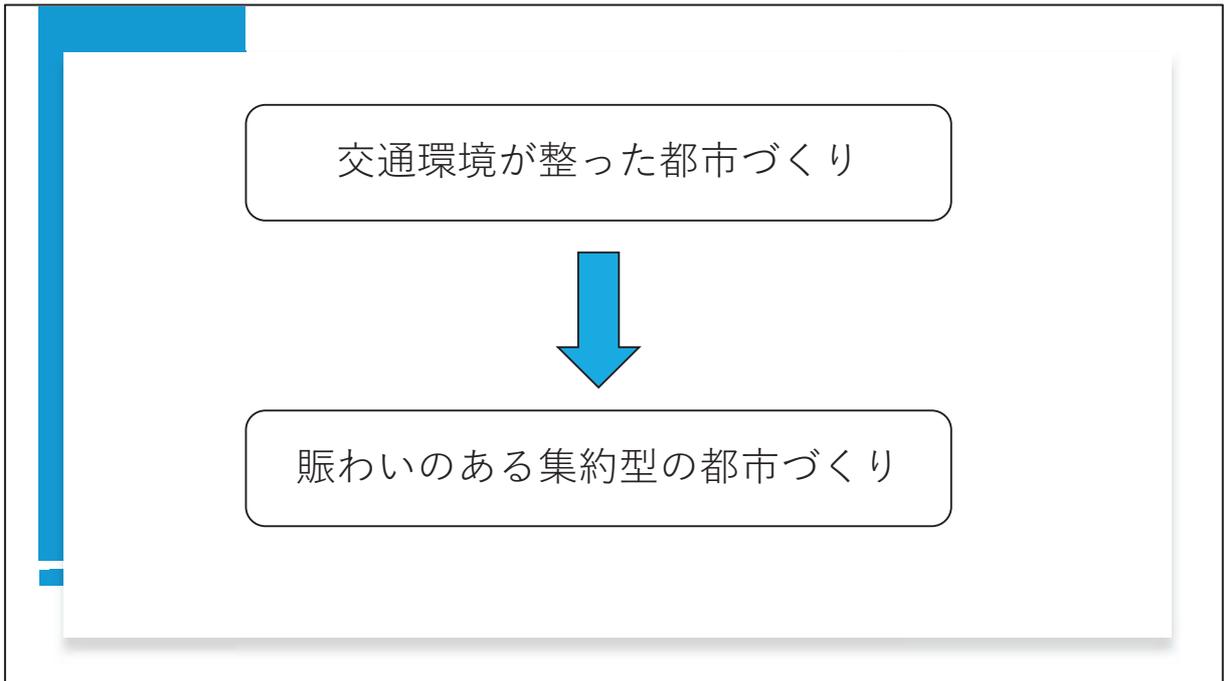
**将来のコミュニティ  
バス実施へ役立てる**

・企画詳細

**コミュニティバスを身近にするイベント**



・企画詳細	
買う 	・フリーマーケット ・地元特産品の販売
学ぶ 	・バスクイズ大会 ・防災教室
体験 	・ドライブシュミレーター体験 ・職業体験



[柴田講師Bグループ]

【講評】

発言者	内容
宋先生	<p>「交通によるまちづくり」この課題は全国的な課題といえる。コミュニティバスのルートとして2つ設定したが、路線バスとの関係はどのようになっているのか。バス停から遠い公共交通空白地域をカバーしているのか。</p>
柴田講師Bグループ	<p>路線バスが通っていない3か所の地域を通るルートで設定している。宜野湾市外からも来やすいように路線バスと重複するルートもある。ダイヤなどの細かいところは設定していない。</p>
宋先生	<p>路線バスと似たような運行で循環していくようになると思う。コミュニティバスの導入や実証実験にはかなり費用がかかる。学生主体で行うイベントも大事だが、コミュニティバスをたくさん利用してもらうためには、宜野湾市の大きなイベントと併せて開催時期をしっかり決めるとよいと思う。</p> <p>2年ほど前に山口県で、祭りの日にあわせて路線バスの料金を0円で運行したところ、乗客数が通常利用の約8倍になった。今ある路線バスを活用することも需要があると思う。</p>

# ハザードマップを 楽しく歩こう！

## ▶ 「防災ウォーク」

### 柴田講師 C班

比屋根 遥人 呉屋 陽彩 米須 蓮  
小渡 未沙季 高吉 瑚青

1

## 目次

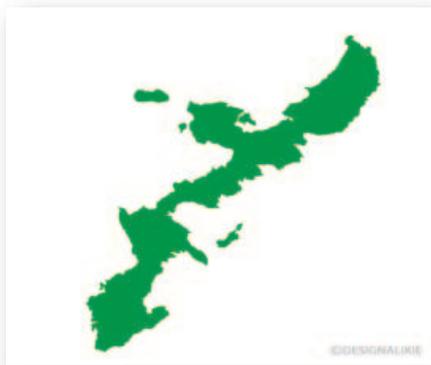
1. 設定したまちづくりのテーマとその解釈
2. 企画概要
3. フィールドワーク（取材）結果
4. 企画詳細
5. 実施に向けた今後の課題や企画者の所感

2

# 1. 設定したまちづくり のテーマとその解釈

3

## 背景



- 海に囲まれている  
→津波の被害
- 歩かない人が多い  
→健康意識の低下

4

**背景**

防災意識の向上と健康増進に  
取り組むイベントを実施したい



安心・安全で健康に暮らせるまちづくり

5

**対象地域の現状と課題**

対象とする地域・・・**西地区から南地区**

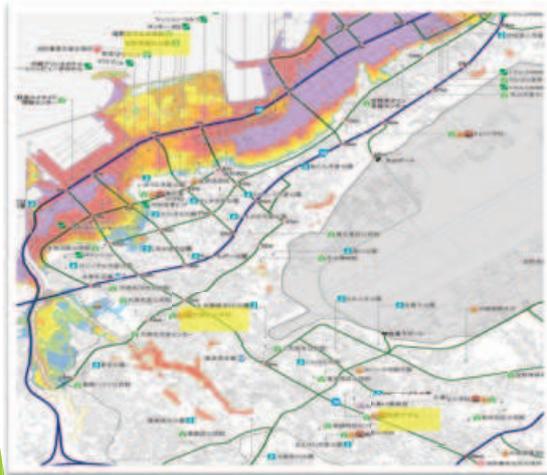
**○現状**

- ・防災に関する周知活動を行っている
- 防災ブースを設ける、防災講演会の実施

**○課題**

- ・最適な防災避難行動を住民に意識づける
- 垂直避難、徒歩避難
- ・警報時の渋滞
- ・日頃の訓練や地域との繋がり、連携による共助

## 西地区の様子



◆海沿い  
→津波への警戒

◆大通り  
→警報時に混雑

7

## 2. 企画概要

8

## 名称：防災ウォーク

実施内容	ハザードマップをたどり、災害時の避難経路を歩いて学ぶウォーキングイベントを開催する。
実施時期	11月下旬（昼、夜に分けて開催）
実施頻度	年1回
実施場所	海浜公園から大謝名小、嘉数中
実施主体	宜野湾市、沖縄国際大学の学生
支援者	行政、自治会
ターゲット	西地区の住民

### 3. フィールドワーク (取材) 結果

取材先：宜野湾市 防災危機管理室

Q. 市民の防災意識を高めるために何をしています？

A. 東日本大震災の被災者をお招きして防災講習会を実施しています。また、救急消防フェアにおいて防災ブースを設けており、防災の啓発活動を行っています。



取材先：宜野湾市 防災危機管理室

Q. 市民の防災意識はどのくらい？

A. 市民の防災意識は高まっていると感じています。しかし、津波警報発表時には車両による渋滞が予想されるため、災害時の最適な行動が求められます。



取材先：浦添市 観光振興課

Q. 参加者を増やすために  
何をしてる？



イベント前・・・TV・ラジオCM、ポスターの  
掲載やSNSを用いた広告

イベント中・・・大会アンケートの実施、  
現場の雰囲気をラジオ中継

イベント後・・・次回につなげるための  
アンケート分析

## 4. 企画詳細

・ 企画詳細

## 防災ウォーク

ハザードマップをたどり、災害時の避難経路をたのしく学ぶ

3 km  
コース

初心者コース

6 km  
コース

上級者コース

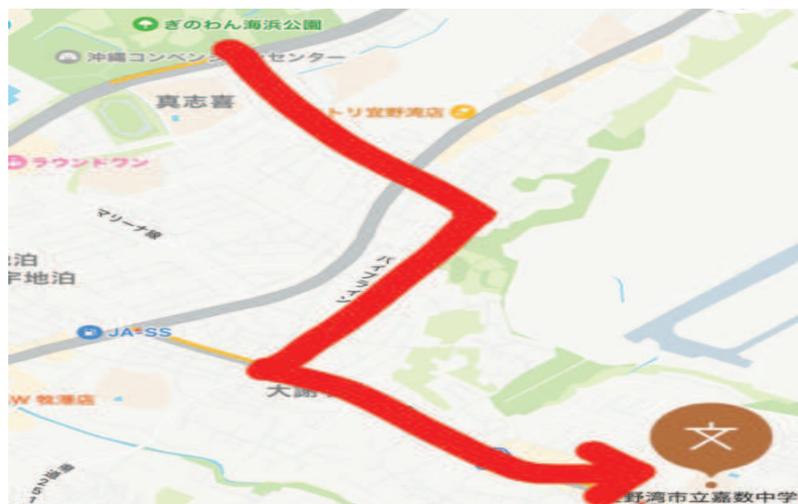
### 海浜公園から大謝名小学校（3 km）



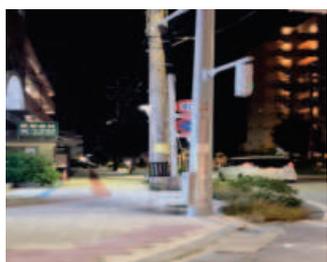
## ルートの様子



## 海浜公園から嘉数中学校（6 km）



## ルートの様子



### ・企画詳細

**防災クイズに答えながら  
ハザードマップを歩こう!**

**数か所にわたり、防災クイズを設置!**

防災に関するクイズに答えて  
たのしく知識を身につけよう



・企画詳細

Q. エレベーター搭乗中に地震が派生！  
何をすべき？

- ①地上に出るために1階を押す
- ②最寄階を押す
- ③全部のボタンを押す
- ④非常ボタンを押す

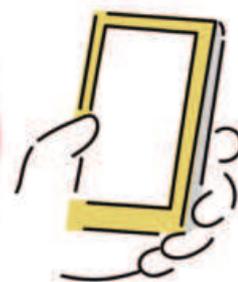


A. ③全部のボタンを押す

・企画詳細

Q. 災害時に家族と連絡が取れない場合に役立つ番号は？

- ①177
- ②171
- ③117
- ④119



A. ②171 (災害用伝言ダイヤル)

・企画詳細

## はごろもウォークとコラボ



出典：ぎのわんシティFM「アプリで歩こう！はごろもウォーク2024」

・企画詳細

## はごろもウォークとコラボ

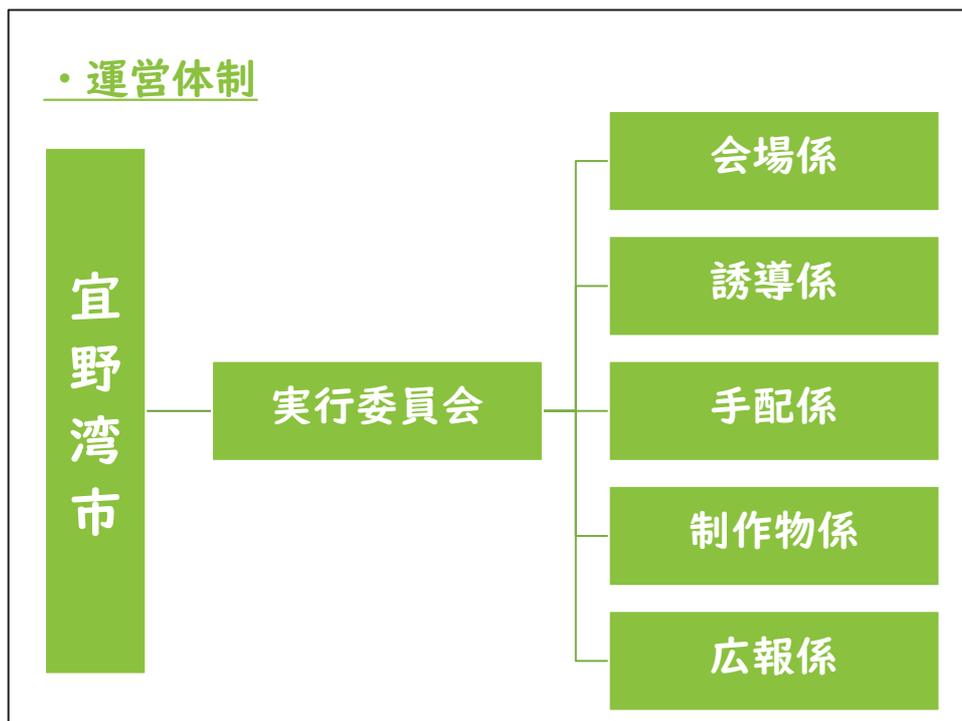


健康アプリ【aurora】で参加登録！

防災ウォーク+はごろもウォークに参加

→防災グッズプレゼント

→最大1万歩数稼ぐチャンス！



**・準備工程**

会場係	会場のセッティング、会場と学校との連携
誘導係	避難ルートの確認、各ポジションの確認
手配係	キッチンカーの見積もり、 ゲスト選定、備品の手配
制作物係	告知に用いるポスターの作成 イベントサイトの作成
広報係	SNSでの宣伝活動、ポスターの掲載、 イベント終了後のアンケート集計

・費用

費用	金額
会場使用料	¥68,400
装飾制作費	¥50,000
ケータリング費	¥200,000
人件費	¥300,000
合計	¥618,400

・必要な費用の取得方法のアイデア

①地域の企業

→イベントのターゲット層とスポンサーの顧客層と一致している企業に広告価値を提案し、協賛を得る

②インフルエンサー

→有名人の影響を利用し資金調達、広報活動に協力

・ 必要な費用の取得方法のアイディア

③クラウドファンディング

→イベントの趣旨や社会的価値をアピール

④防災グッズの販売

→災害時の生活必需品の販売



⑤募金活動

→イベント開催前に募金箱を設置

29

5. 実施に向けた今後の  
課題や企画者の所感

30

- ・ イベントを通じて避難経路を確認し、防災グッズを用意する習慣を促す
- ・ 西地区の住民に向けたイベントのため他地区の住民は参加しづらい
- ・ 宜野湾市全体の防災意識を高める  
→他地区でもウォーキングイベントを開催する

31

ご清聴ありがとうございました

32

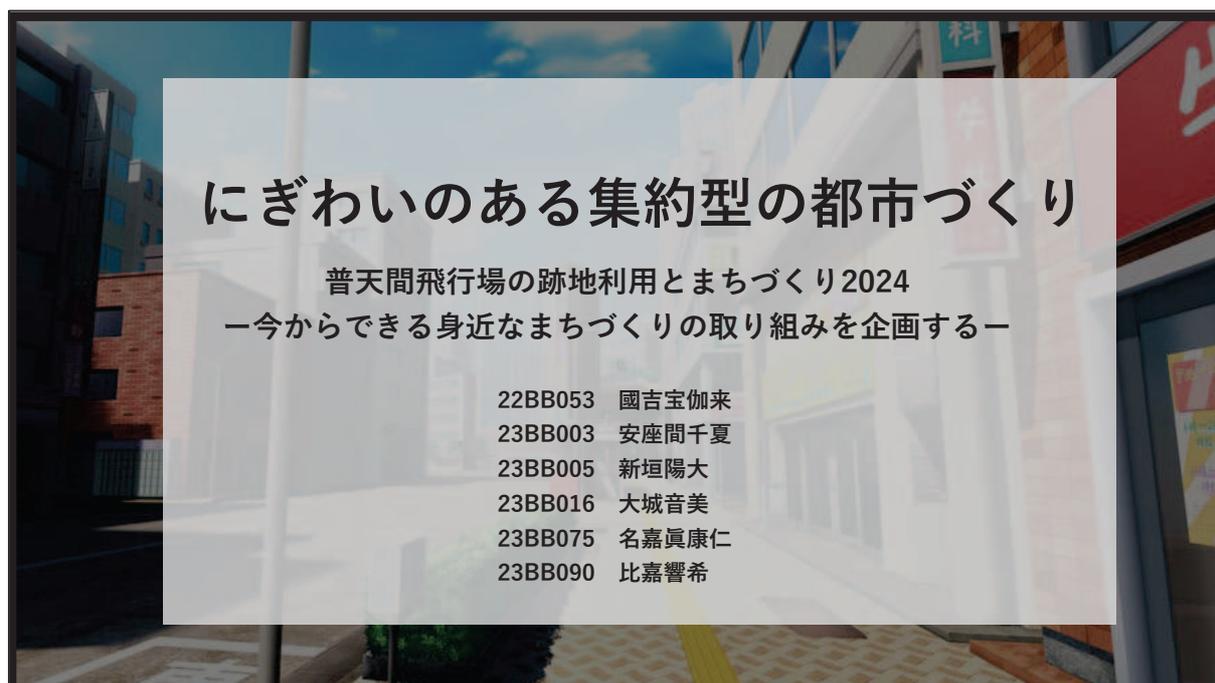
[柴田講師Cグループ]

【質疑応答】

発言者	内容
参加者	ゴール地点である大謝名小学校は海拔6mで、津波の際の避難場所としては少し厳しいのではないかと。
柴田講師Cグループ	宜野湾市の防災危機管理室の担当者からは、大謝名小学校はハザードマップで避難場所として設定されていると伺ったため、ゴール地点にふさわしいと思い設定した。
参加者	高齢者や足が不自由などの理由で歩くことが難しい方々は参加できないのだろうか。
柴田講師Cグループ	高齢者は初心者コースを案内するが、足が不自由な方の参加は難しいと思うので、参加できる案について今後検討する。

【講評】

発言者	内容
宋先生	防災まちづくりは非常に重要なテーマで、防災の認識を市民に広げるという意義がある。すぐに実施できる企画だと感じた。 実施するにあたり、人件費にかなり費用がかかっているが、参加者は何名を想定しているのだろうか。
柴田講師Cグループ	参加人数は1,500人程度を考えており、スタッフは100人を想定し人件費を算出している。
宋先生	まちを歩くイベントなので、参加者は30人程度と考えていた。 1,500人が参加するイベントはかなり規模が大きい。その認識であればスタッフの人件費として経費が必要かもしれない。 問題は「防災認識がまったくない方にどうやって防災認識を伝えるか」ということで、「防災ウォーキングを開催します」と言えば、防災に関心ある方は参加すると思う。そこからさらに防災の認識の薄い層にどう伝えるかが重要である。そのためには遊び心を入れることが大事なわけで、クイズを解きながら歩くことができ、宜野湾市主催の「はごろもウォーク」とのコラボも非常に面白いと思った。 避難路には、第一次避難と第二次避難がある。参加者が自分の家から一番近い避難場所を知ることができる工夫について調べてもよいと思う。あと、ケータリング費に経費がかかる理由はなぜか。
柴田講師Cグループ	インターネットで調べた情報では、キッチンカーの場所代が1台4～6万円かかるので、5台を想定した金額を算出している。
宋先生	1,500人集まるイベントを開催すると、キッチンカー側から出店依頼が来ると思うので、出店料はもらったほうが良い。最初から大きい規模で実施するのではなく、少ないレベルから始めて、少しずつ規模を広げていくとよいと思う。



## 目次

- テーマを取り上げた背景
- 対象とする地域
- 地域の現状と課題
- 区長さんのお話
- 実施するイベントの内容
  - ・イベント概要（中規模・大規模）
  - ・企画を実施するための工程
- 今後の課題
- 感想



## テーマを取り上げた背景

### 宜野湾市

学校やチェーン店が多く、人が多い



しかし

“賑わっている”というイメージが無い



## 活気のあるまちづくりを目指す

## 対象とする地域

### 国際学園都市地区

- 地区内に沖縄国際大学が立地し、隣接する西原町にも琉球大学が立地している
- 県を代表する文化・学術の拠点となる学園都市としての役割を担っている



人口 24,653人

世帯数 11,669世帯



## 地域の現状と課題

- ・最近イベントに参加する人が減っている
- ・地域住民と学生との関わりが少ない
- ・将来的には、若年層が減ることが予測されている  
⇒地域の衰退が考えられる



## 学生にインタビュー

- ・学生主体のイベントがない
- ・地域と学生が関わっているイベントを知らない
- ・周辺地域のことをよく知らない
- ・学校の日には時間がない

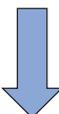


## 学生の意見を踏まえて

私達のテーマを達成するために



学生が主体となり、地域とかかわることのできるイベントの開催

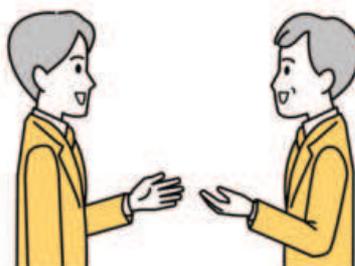


**活気あるまちづくりへ**



## 区長さんにお話を聞きました

取材先：宜野湾自治会事務所



Q1 地域住民の方々は学生が出てくることに対して  
どのように考えていますか？

- ✓ 率直にうれしい
- ✓ 若い世代と交流することで元気がもらえる
- ✓ 交流を図ることで 自治体と学校の絆や  
地域住民全体での関係を深めていきたい
- ✓ 地域の方々は、学生に対して理解があるので、  
懸念している点はない



Q2 宜野湾市のどのような部分を推していきたいですか？

- ✓ 伝統文化である**エイサー・大綱引き**を推していきたい！！



Q3 どのようにして、行うイベントでの集客力や影響力を  
与えているのですか？

- ✓ イベントに自分も参加しているという参加意識を持ってもらう  
⇒ イベントのタオルやTシャツのプレゼント



Q4 イベントを行う際に大切にしていることはなんですか？

- ✓ できるだけ全年齢層が参加できるようにする
- ✓ 様々な体験をしてもらう



Q5 どのようにして地域の方々を呼んでいるのですか？

- ✓ LINEなどのSNSを使って呼びかけている



実施するイベントの内容



## 世代別のニーズに合わせてイベントの開催

大規模なイベントだけだと対象者が限られてしまう  
⇒イベントの効果が薄れる

小・中・高・大学生で世代を分けた中規模なイベント



全体的な効果が期待できる！



## イベント概要（大規模）



# 沖縄国際大学をはじめとしたフリーマーケットの開催

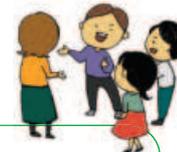
目的：主に学生と地域住民の交流の機会を作る

実施頻度：年1～2回

実施時期：夏休みなどの長期休み

実施主体：学生

支援者：企業、飲食店、自治会地域住民



- ・ 伝統に触れるため、フリーマーケットの会場で綱引きの開催
- ・ 小中学生も参加しやすいように「未来チケット」の導入



## 未来チケットとは



この未来チケットとは、利用客がプラス料金、支払いチケットを購入し、ホワイトボードに貼ります。店にやってきた子どもたちがそこからチケットを取って、注文するというものです。この活動は、子どもたちを食で支援するタコライスラバースが企画したもので、県内で200店あまりが協力しています。

参考文献 <https://studio.persol-group.co.jp/nama/220809-1#:~:text=https://www.fnn.jp/articles/-/776470>



## イベント概要（中規模）

【小学生】

各地にQRコードを設置したスタンプラリーの開催

▶ **実施頻度** 年2~3回

▶ **実施時期** 夏休みなどの長期休み

▶ **支援者**  
自治会や土地の所有者を中心に協力依頼

▶ **実施主体** 大学生

【中・高・大】

学校の教室などを借りたカフェや居酒屋の開催

▶ **実施頻度** 年1~2回

▶ **実施時期** 夏休みなどの長期休み

▶ **支援者**  
小学校、商業高校にコラボ商品の依頼、地域住民・地域の飲食店

▶ **実施主体** 大学生



## 中規模（小学生・中学生）

国際学園都市地区内を中心とした

### 各地にQRコードを設置したスタンプラリー

意図：小学生に宜野湾市のあれこれを知ってもらおう！

期間：一週間 景品：図書カード

- ① 親子でも楽しめる
- ② 人混みが苦手な子も参加しやすい
- ③ 実際に外に出て宜野湾市を知るきっかけになる
- ④ 書籍の売り上げの手助け

JRおでかけネットHPより引用



## 中規模（中・高・大学生）

小学校などの施設の教室を使ったカフェや居酒屋の開催

①

### 小学校の教室などで行うことの非日常感

⇒興味を持ってもらえる

②

### 話題性が出る

- ・ 県内の商業高校とのコラボ商品
- ・ インスタで「#学校居酒屋」  
（「#学校居酒屋」の投稿 1000件以上ある）

③

### 誰でも参加しやすいイベント

⇒イベントの帰り際に周辺をめぐるきっかけに！



## 運営体制



**【中規模】**

▶ **予想費用**  
30万円以内

▶ **費用の取得方法**  
クラウドファンディング  
飲食店からの支援  
など

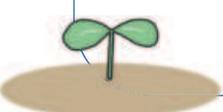




**【大規模】**

▶ **予想費用**  
150万円以内

▶ **費用の取得方法**  
クラウドファンディング  
企業や飲食店からの支援  
など



## 企画を実施するための工程

- ① 運営主体である学生を募集
- ② 企業や飲食店からの支援で集金
- ③ 飲食店の運営許可を得る
- ④ 自治体や地域への協力依頼



準備開始



宜野湾区の大綱引きは何年に一度でしょう

1 一年に一度

2 三年に一度

3 五年に一度

4 十年に一度

正解は3番です。

---

綱引き時、士気をあげ力を誇示する掛け声は何でしょう



1 ガーエー

2 ノーイー

3 シーサー

4 ヒーラー

正解は1番です。

---

正解は・・・1番！

ガーエーは沖縄の方言！

意味は・・・

「争う」「決闘」「喧嘩」



それぞれの意味は？



ノーイ

意味：直り  
仲直り  
(ナーカノーイ)

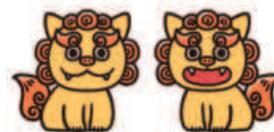
シーサー

意味：シーサー



ヒーラー

意味：ゴキブリ  
「ふいーらー」とも発音  
される



宜野湾区大綱引きは第二次世界大戦が激しさをました  
1941年を境に途絶えてしまいましたが、復活して以降5  
年ごとに開催しています。何年ぶりに復活したでしょう。

1 42年ぶり

2 58年ぶり

3 66年ぶり

4 77年ぶり

正解は3番です。

---



## 今後の課題



1

宜野湾市の西側に人が流れているので、東側とで均等にするにはどうしたら良いか

2

イベントで継続的な効果をうみだすにはどうするか。

3

伝統文化をどのようにして次の世代につないでいくのか



今回の学習を通して・・・

同じ市でも、各区で課題が異なるため、各区の課題を解決していくことで、市全体を活性化させていくことに繋がるのだと考える。



ご清聴ありがとうございました



[野添教授Aグループ]

【講評】

発言者	内容
宋先生	<p>エイサーと大綱引きに着目したことは面白いと思う。イベント性もあるし、「まちを知る、学ぶ」というところから始めることがベースにあると感じた。若い世代がまちに愛着を高めていくには、まず自分のまちを知るところからだと思う。</p> <p>小学生や中学生も含めて、クイズ等で歴史的な知識を共有できることはよいと思った。</p> <p>また、クラウドファンディングでの資金調達もいいが、まずは小さくても良いので、できることから始めるとよい。</p> <p>5年に一度開催される宜野湾区の大綱引きは、次は何年に開催されるのか。</p>
野添教授Aグループ	<p>次回は2028年に開催される。</p>
宋先生	<p>課題点として伝統文化の後継者の問題を挙げていたが、このようなイベントをつなぎ役として行うのも面白いと思う。</p> <p>次回2028年に開催される、宜野湾区大綱引きとあわせて取組むとよいと思う。</p>

6

普天間飛行場の跡地利用とまちづくり2024  
-今からできる身近なまちづくりの取り組みを企画する-

## テーマ

**「地域資源を活かした地区イベントで交通渋滞緩和！」**

野添教授 B班

メンバー：23BB080 長嶺瑠菜 23BB017 大城苺子  
23BB007 栗國瑞仁 23BB013 歌代 隼  
23BB101 松田 陸 23BB015 大城颯太

1

## 目次

- ▶ 設定したまちづくりのテーマとその解釈
- ▶ 企画概要
- ▶ フィールドワーク（取材）結果
- ▶ 企画詳細
- ▶ 実施に向けた今後の課題や企画者の所感

2

宜野湾市の現状として58号線周辺の交通渋滞に着目

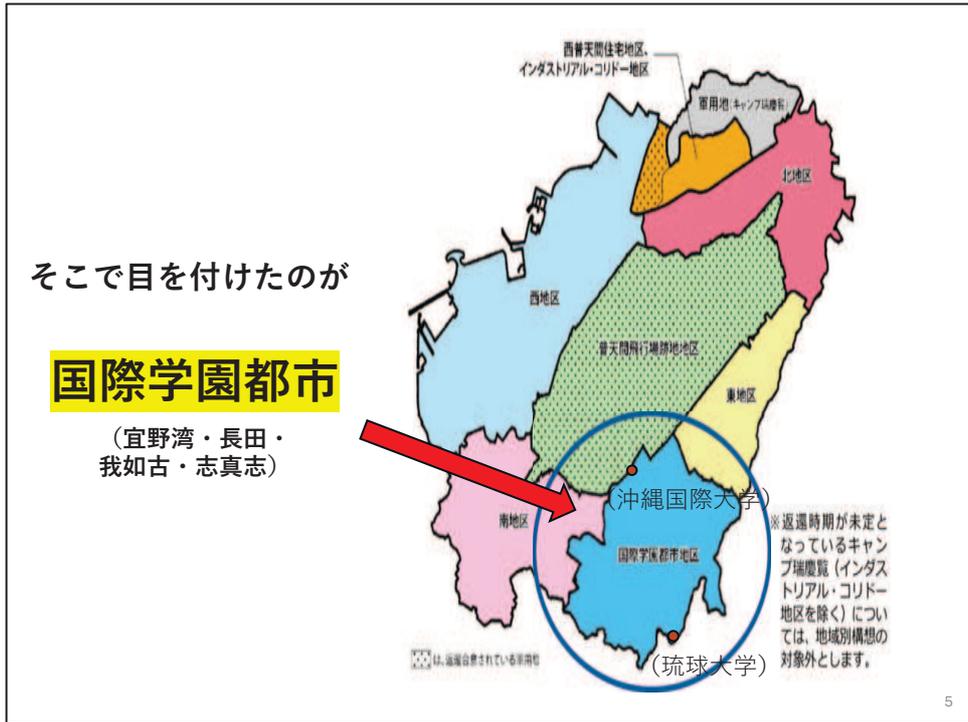


土日や通勤ラッシュ  
が特に混む

交通を分散させるために他の地区を発展させる

= 行く先の選択肢を増やす

他の地区の魅力を知ってもらえば  
そこにも人が流れていく



**国際学園都市の強み**

地区内に大学が2つある  
(沖縄国際大学と琉球大学)

沖縄→県内のいろんな所から人が集まる  
エイサーが活発

琉大→県外のいろんな所から人が集まる  
大学周りに住んでいる人が多い

↓

**地域資源が豊富な  
国際学園都市地区を対象地域に**

6

そこで考えたイベントが、、、

## 沖国と琉大の合同学祭



沖縄国際大学

Okinawa International University



琉球大学

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

7

### 企画概要



#### 目的

・宜野湾市や国際学園都市を知ってもらうきっかけとなるイベント



#### 実施主体

・学生（沖国生と琉大生）



#### 支援者

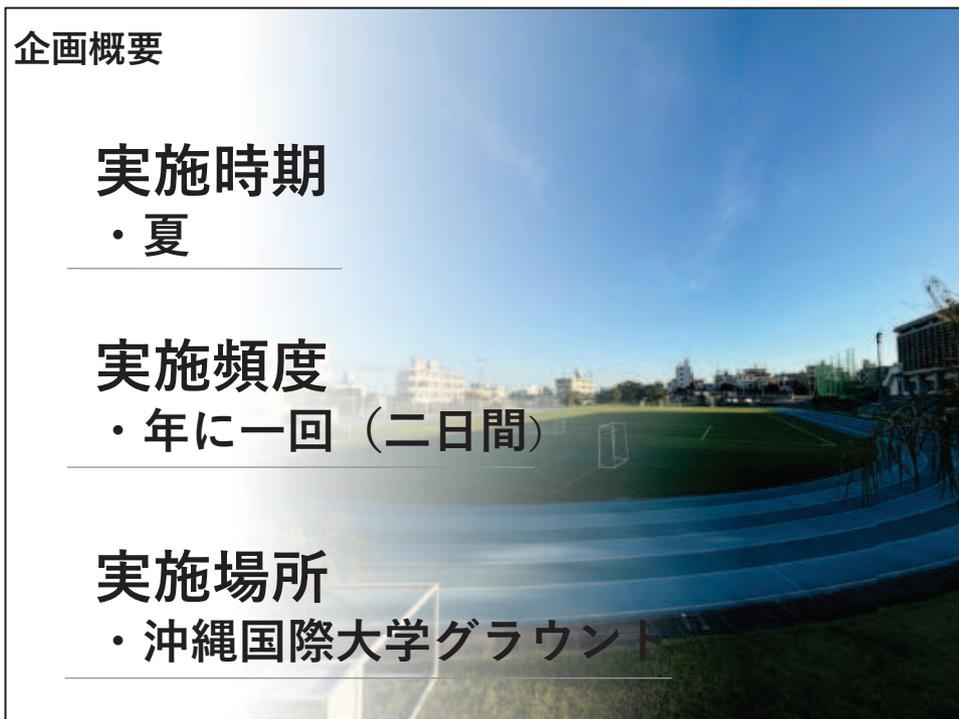
・行政、企業、団体



#### ターゲット

・市内、市外の人

8



**企画概要**

**実施時期**  
・夏

**実施頻度**  
・年に一回（二日間）

**実施場所**  
・沖縄国際大学グラウンド

**企画概要**

沖縄と琉大の学生、企業の出店が主体となって

出店

ステージ

イベント

10

普天間飛行場の跡地利用とまちづくり2024  
-今からできる身近なまちづくりの取り組みを企画する-

## エイサーサークルに聞いてみた

実際に市内や市外の人に演舞したことがあるか？



ある。例：旧盆の道じゅねー、全島エイサー祭り、県外や海外の遠征など

サイトにアクセス

合同学祭でエイサーを披露することについてどう思うか。



エイサーに興味を持ってくれる人が増えるからいいと思う。

サイトにアクセス

## エイサーサークルに聞いてみた



宜野湾市青年会や琉大サークルとの合同エイサーの実施をどう思うか。

エイサーをお互い見せ合うイベントは毎年3月にしている。合同エイサーはしてみたいと思うけど、振り合わせに時間がかかるから厳しいかも。



合同エイサーをすることは可能。エイサーだけでは集客力が弱いから他の企画も実施した方がいい。

あ1

## 琉大生に聞いてみた



冲国と琉大の合同学祭についてどう思うか。

そういうのに参加したことがないから学生にとってもいい機会になると思う。



13

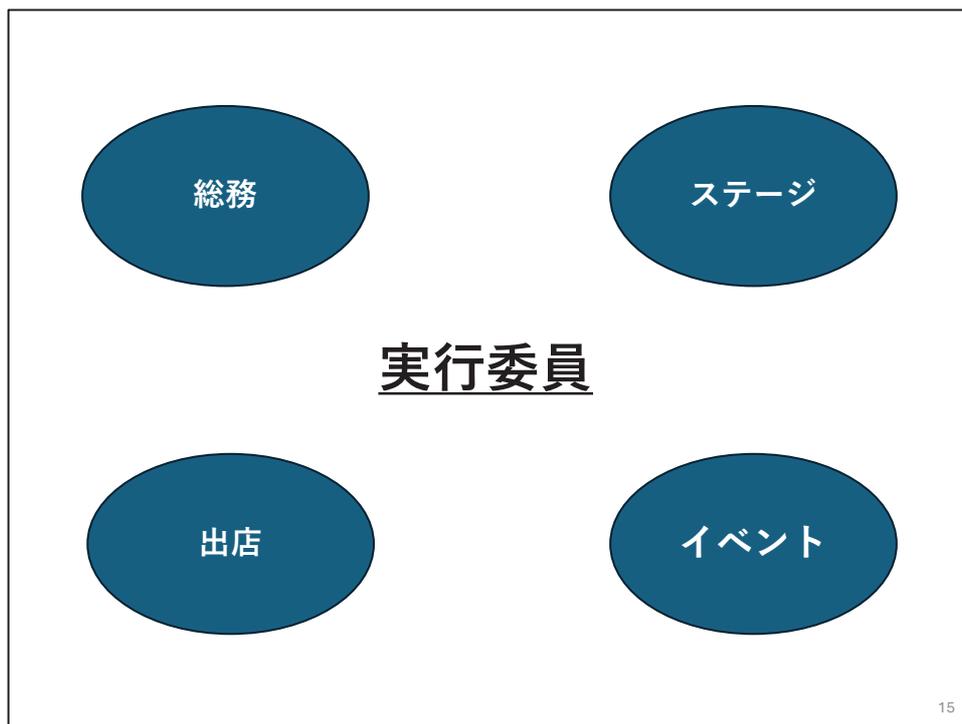
## ～インタビューをしてみて～

合同エイサーの演舞は  
できそう

合同学祭は学生にとっても交流  
することができるいい機会

スケジュール調整はどうか、  
どのように企画を進めていくか

14



## ★出店班

### 出店団体の管理

出店希望の学生団体の受付や実際にあるお店に出店依頼を行い、当日までの出店団体の管理を行う。

— 出店依頼するお店の例 —

- ・ コルネとサンドのお店pippi (スイーツ)
- ・ プーランジェリーダイ (パン)
- ・ 花の藤商 (お花)
- ・ YAMADA COFFEE OKINAWA (カフェ)
- ・ mou (イタリアン料理)

16

## ★ステージ班

### エイサーの運営

沖国エイサー・琉大エイサー・宜野湾青年会との練習や本番まで連携をとるための仲介者。  
また、本番当日会場内のスペース確保の警備。

17

## ★総務班

### 必要な費用の収集・管理

協賛してくれる企業からお金を集める。  
また、イベント開催にあたり必要な  
パンフレットや景品などの  
お金の管理を行う。

18

## ★イベント班

### クイズ大会の運営

会場内の数か所に宜野湾市  
(特に国際学園都市)のクイズを設置し、  
地域について学びながらイベントを  
楽しんでもらう。  
景品は宜野湾市の特産品にする。

19

### 特産品の例

泡盛BONBONショコラ



ラードラボスキンケアクリーム



島どうふチップス



景品だけでなく出店でも  
販売するのもあり！

20

## 国際学園都市地区クイズ クイズの例

Q.国際学園都市地区にある周辺住民達の生活用水だった湧き水で宜野湾市の市指定有形民俗文化財にもなっている場所は？

1. 我如古ヒージャーガー
2. 森の川
3. 西原洗濯ガー



出典：宜野湾市観光振興協会より



出典：宜野湾市\_\_其の4 8\_\_各地域の文化財4  
より

21

## 国際学園都市地区クイズ クイズの例

Q.沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落した事件は2004年8月何日？

1. 8月12日
2. 8月13日
3. 8月14日



22

## 合同学祭の内容のまとめ

### エイサー

沖国の強みでもあるエイサーを琉大の学生と青年会のメンバーと披露してもらう

### 出店

出店を行い周辺のお店や特産品を知ってもらう

### スタンプラリー

スタンプラリー方式で国際学園都市を知ってもらうためのクイズを実施する

23

## 実施に向けた今後の課題

- ▶ 日程を合わせるのが難しい
- ▶ 費用集め
- ▶ いろいろな人に来てもらうには
- ▶ 企業
- ▶ クイズ

24

## 企画者の所感

- ▶ 実際に企画をするとさまざまな課題があることや 地域の魅力についても知らないところがあることを発見した
- ▶ 他県の取り組みやイベントを学びたい
- ▶ 裏側の業務についても学びたい

25

ご清聴ありがとうございました。



26

[柴田教授Bグループ]

【講評】

発言者	内容
宋先生	<p>山口県宇部市で、今年9月に初めて合同学園祭を実施した。この企画も実施可能だと思うが、会場を沖縄国際大学のグラウンドにすると、参加者に偏りがでてくる懸念がある。地域の方が行きやすい場所を選ぶといいと思う。</p> <p>エイサーサークルにヒアリングを行っていたが、大学の中にある他のサークルチームとも連携を組み、ステージや展示等のイベントができるとよいと思う。</p> <p>開催時期については、宜野湾市全体のイベントスケジュールと調整が必要だと思う。</p>

普天間飛行場の跡地利用とまちづくり2024  
-今からできる身近なまちづくりの取り組みを企画する-

野添教授 C班

## 絶滅寸前の田芋を救え



1

## 目次

1. 田芋の魅力
2. 実用技能田芋検定
3. 設定したまちづくりのテーマ
4. 現状課題
5. 企画概要
6. 企画詳細
7. フィールドワーク（取材）結果
8. 田芋を守る為に出来ること
9. まとめ

2



## 田芋（ターナム）の魅力

**田芋とは？**

- 沖縄で古くから親しまれる里芋の一種
- 小ぶりで粘り気が強く、甘みが特徴
- 沖縄方言で「ターナム」と呼ばれる

**栄養と健康効果**

- 豊富な栄養素: 食物繊維、ビタミンB1、カリウム
- 健康効果: 便秘解消、疲労回復、高血圧予防

**田芋の利用**

- 料理: 煮物、田芋パイ、田芋田楽、田芋けんぴ
- お祝い事や祭りでの特別な食材

3

# 芋検

2024年度 第1回

## 実用技能田芋検定

あなたの芋力は何級？

4

## 第1問

Q.田芋の日はいつでしょうか？

①2月6日



2月6日の「ターウムの日」は  
ターチ（2つ）、ムーチ（6つ）  
＝タームの語呂合わせで、  
県内有数のターウムの生産地・  
宜野湾市の田芋生産組合が制定したもの

②6月10日

③8月22日

④11月5日

5

## 第2問

Q.田芋は主にどの部分を食べるか？

①茎

②葉

③地下茎



6

### 第3問

Q.田芋は沖縄では特別な行事や祭りで使われますが、その理由は何でしょう？

①健康長寿を祈るため

②繁栄や子孫繁栄のため

③外国文化の影響

④天候に恵まれることを願うため

親芋の周りに小芋や孫芋が育つことから  
子孫繁栄の縁起の良い食材として使用されている

7

## 設定したまちづくりのテーマ

### 背景

- ・宜野湾市の特産品である田芋の生産量低下、田芋農家の人手不足や後継者問題
- ・数年後には宜野湾市から田芋が消えるかもしれない



### 設定したテーマ

**地域資源**を活かした都市づくり

8

## 現状課題

- 田芋の生産量が減っているがイベントを行える量の田芋を集めなければいけない
- 田芋農家の活性化
- 農地の整備
- 宜野湾市から田芋自体が消える
- 正月やお盆から田芋を使った伝統料理が消える可能性がある



9

## 企画概要

### 実施する内容

実施時期	田芋の日の週の土日
実施頻度	年に一度 2/6田芋の日の週に行う
実施場所	トロピカルビーチ・海浜公園
実施主体	宜野湾市役所 田芋農家 学生
支援者	行政 企業
ターゲット	地域住民
実施内容	<ul style="list-style-type: none"><li>• 公園で田芋料理選手権を開催する</li><li>• クイズ大会</li><li>• 料理教室</li></ul>

10

## 企画概要

2012年



2024年



**対象地域**

- ・ 宜野湾市西地区

**地域の現状と課題**

- ・ 畑としての土地は広いが使われている所が少なく、放棄されている場所が多い
- ・ 現在活動している田芋農家が少ない
- ・ 昭和43年に宜野湾市内の農地を全面宅地に変えるという条例が施行されている

11

## 企画詳細

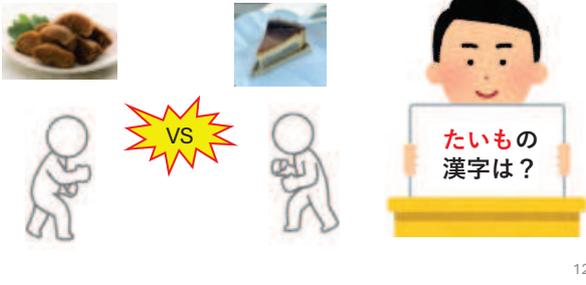
**運営主体**

- ・ 行政や企業の協力を得て、学生が主体となって行う



**イベント内容**

- ・ 田芋クイズ大会
- ・ 田芋料理選手権
- ・ 料理教室の開催



12

## 企画詳細

### 地産地消の推進

- ・田芋以外の材料も宜野湾市で作られた物  
をなるべく使用する
- ・田芋商品以外の特産品も販売して、促進  
を促す



泡盛ボンボンショコラ



沖縄フロマージュ

### 準備・調整

- ・田芋の提供と機材の貸し出しを行う
- ・企業に依頼して田芋を使った食べ物をイベントで売る
- ・企業への出店依頼
- ・事前に住民への呼びかけを行う
- ・景品の準備



ラードラボスキンケアクリーム

### 費用調達

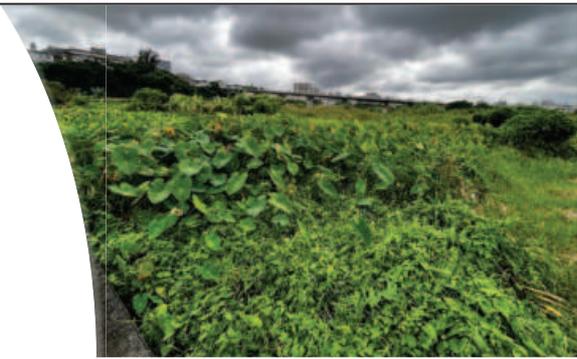
- ・クラウドファンディングや募金活  
動などで集める



13

## フィールドワーク（取材）結果

14



## 大山の田芋畑

全体の約1割程度しか稼働しておらず、ほとんどが雑草などで覆われ放棄地となっていた。



15



## 海浜公園

- 交通面で立地が良く、全体的にスペースや駐車場が広い環境なので人を集めやすい。
- 近くの施設や駐車場などにバリアフリーが取り入れられており、どのような人でも参加しやすい。



16



宜野湾市役所  
産業政策課  
農林水産係

- 現在の田芋農家は2~3人程度
- 大山田芋畑は区画整備で住宅地になる予定
- PFASなどによる水質汚染の問題
- 地元のJAで肥料が手に入らない
- 宜野湾市で田芋が買えない

17

## 田芋を守る為に出来ること

- 田芋をメインにしたイベントを定期的開催する
- 市立博物館などで数年ごとに市民の方から許可を得て、写真展を行い、田芋畑の成り立ちや歴史を知ってもらう事で宜野湾市が田芋の産地だったことを忘れさせないようにする
- 畑が宅地化しても、そこの文化や自然に住民が直接触れ合いながら生活出来る環境を作る



18

## まとめ

- ・ 田芋を守るためには、地元農家の支援や若い世代への栽培に興味を持てるような研修や補助制度が必要
- ・ 観光やイベントで田芋を活用し、その価値を広く発信する取り組みが必要
- ・ 学校教育などで田芋の歴史や栽培方法を教えることが次世代への継承につながる
- ・ 消費者に田芋の魅力を伝えるため、レシピの提案や工夫が大切

19

ご清聴ありがとうございました！

---

20

[野添教授Cグループ]

【質疑応答】

発言者	内容
参加者	宜野湾市ではタイモの入手が困難だが、イベント用のタイモはどこから調達するのか。
野添教授Cグループ	開催の1年前から農家の方と交渉して、私たちもボランティアで参加して、集めようと考えている。 県内にも金武町や糸満市で栽培されており、金武町は栽培が盛んなので協力をお願いしたいところだが、伝統を守るというテーマなので、宜野湾市のタイモをなるべく使用したいと考えている。
参加者	宜野湾市の特産品であるタイモを大切にしたいという発表で嬉しかった。39ファームという農業団体があり、10年ほど前からタイモ料理や、子ども達のタイモ体験等のイベントを活発に行っていたが、今はタイモ栽培をやめて、レンコン栽培をしている。39ファームにどのような経緯があって栽培をやめてしまったのか、ヒアリングをすると今後のイベントの参考になるかもしれない。
野添教授Cグループ	39ファームをフィールドワーク先として検討していたが、連絡が取れず断念した。機会があれば聞いてみたいと思う。

【講評】

発言者	内容
宋先生	農家でタイモを栽培している方は、現在2、3人しかいないのか。その方たちにヒアリングは行ったのか。
野添教授Cグループ	農家は2、3人で、趣味や兼業の傍らで栽培している人が多い。時間を変えて4、5回現地に行ったが、会えなかった。
宋先生	趣味や兼業でタイモを栽培している方々とイベントを実施することは可能だろうか。生業としてやるのが難しい時代で、兼業で他の仕事もしないと生活が成り立たないのかもしれない。タイモを栽培している方々の生活を安定させる視点も必要だと思った。 例えば、学生が実際に「タイモを栽培しながら、技術を継承していく」このようなプロセスも面白そうだった。
野添教授Cグループ	私達にもできることがあればやってみたいと思う。
宋先生	レンコン栽培に移った理由として、財政的な厳しさや、水質の問題があったかもしれない。何が問題だったのかももう少し調べて、改善するために必要なことを確認するとよいと思う。 この企画は長期的なプロジェクトとして行う必要があると思う。

【感想・総評】

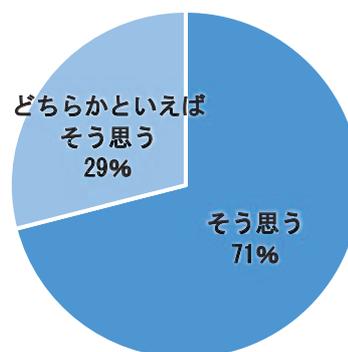
発言者	内容
柴田講師	各グループともに、行政や事業者などに支援・後援をしてもらうことを述べていたが、実際は各主体から協力や協働は見込めていない。企画を進めていくにあたり、各主体との連携・協働は大事になってくると思う。苦労したことや協働に関するポイントなどについて、学生にアドバイスしていただきたい。
ゲストスピーカー (宋先生)	それは重要なポイントで、まちづくりワークショップのファシリテーターは学生にやってもらっている。学生がグループに入ることによって雰囲気良くなる効果がある。学生に注意してもらいたいところは、地域住民には必ず挨拶をして、まちに感謝の気持ちを持ちながら、まちづくりに関わっていくことだ。
野添教授	地域の課題や現状を理解し、まとめることができたと思う。また、フィールドワーク先でのまとめも良くできており、イベントの詳細に繋がると思う。イベントを開催するプロセスを学ぶことができたと思う。
ゲストスピーカー (宋先生)	今年はリアリティが高いと感じた。フィールドワークに時間をかけたこともよかったと思う。やり重ねることがとても大事である。
ナビゲーター (堀江)	まちづくりを行なう仕組みのデザインの部分と、プロセスを組み立てていくことが、まちづくりではとても重要になってくる。

## ②-6. 受講者アンケート結果

調査日	令和7年1月7日（火）※発表後の振り返り授業にて
調査対象	受講者32名
回収数	31通（回収率：93.9%）

Q1. 授業内容はわかりやすかったですか。（1つに○）

選択肢	回答数 (件)	構成比
そう思う	22	71%
どちらかといえばそう思う	9	29%
どちらともいえない	0	0%
あまりそう思わない	0	0%
そうは思わない	0	0%
無回答	0	0%
合計	31	100%



Q2. 授業内容の良かった点を教えてください。（記述）

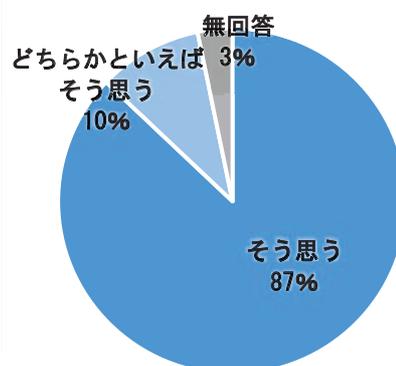
- ・前半の講義では、レポート作成用のスライドの作り方など今後の大学生活において必要となる技術を教えてくれたことが良かった。後半の講義ではグループ活動でフィールドワークを行ったことが私にとってとてもよい刺激になったため、これからもこのような授業を多く取り入れて欲しいと思った。
- ・ただ企画を考えるだけでなく、フィールドワークを行うことで企画をより実現可能なものにすることができる点がよいと感じた。

Q3. 授業内容の改善してほしい点を教えてください。（記述）

- ・調べる内容や、企画に関するアドバイスが的確だった。
- ・前回の授業内容を取りまとめた資料を、毎回配布してくれたので授業の振り返りがしやすかった。

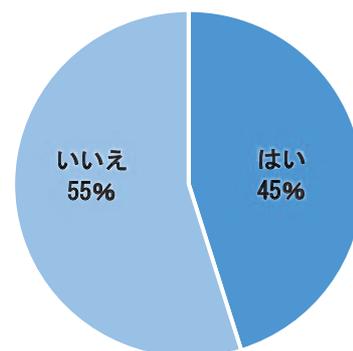
Q4. この授業によって知識が増えたり、まちづくりへの興味・関心は高まりましたか。（1つに○）

選択肢	回答数 (件)	構成比
そう思う	27	87%
どちらかといえばそう思う	3	10%
どちらともいえない	0	0%
あまりそう思わない	0	0%
そうは思わない	0	0%
無回答	1	3%
合計	31	100%



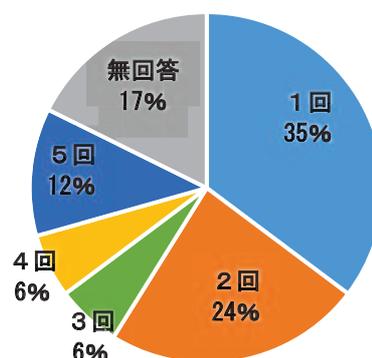
Q5.グループワークは初めてでしたか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
はい	14	45%
いいえ (- 回経験がある)	17	55%
無回答	0	0%
合計	31	100%



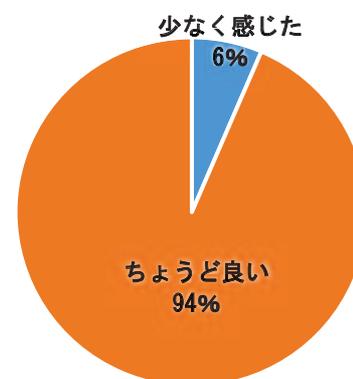
(Q5.- ②) →いいえ (数値選択)

選択肢	回答数 (件)	構成比
1回経験がある	6	35%
2回経験がある	4	24%
3回経験がある	1	6%
4回経験がある	1	6%
5回経験がある	2	12%
無回答	3	17%
合計	17	100%



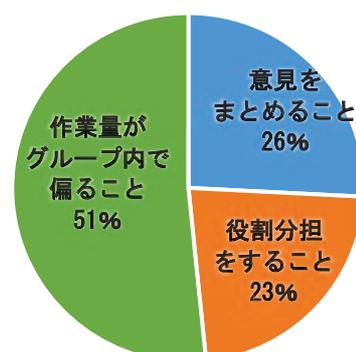
Q6.グループワークの人数はどうでしたか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
少なく感じた	2	6%
ちょうど良い	29	94%
多いと感じた	0	0%
無回答	0	0%
合計	31	100%



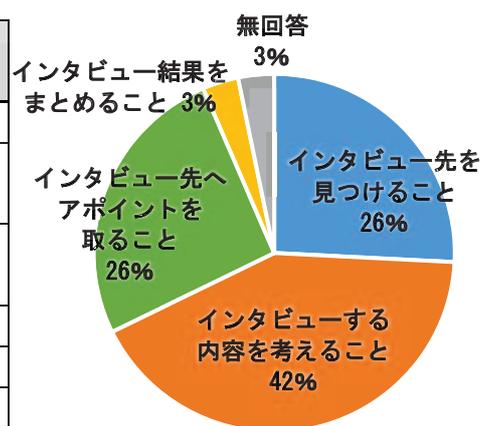
Q7.グループワークを進めるにあたって最も難しく感じたことは何ですか。(1つに○)

択肢	回答数 (件)	構成比
意見をまとめること	8	26%
役割分担をすること	7	23%
連絡を取り合うこと	0	0%
作業量がグループ内で偏ること	16	51%
合計	31	100%



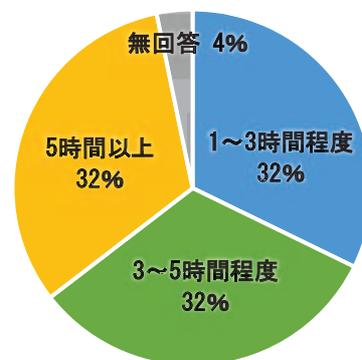
Q8.インタビューを進めるにあたって最も難しく感じたことは何ですか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
インタビュー先を見つけること	8	26%
インタビューする内容を考えること	13	42%
インタビュー先へアポイントを取る	8	26%
聞きたいことが聞けなかったこと	0	0%
インタビュー結果をまとめること	1	3%
無回答	1	3%
合計	31	100%



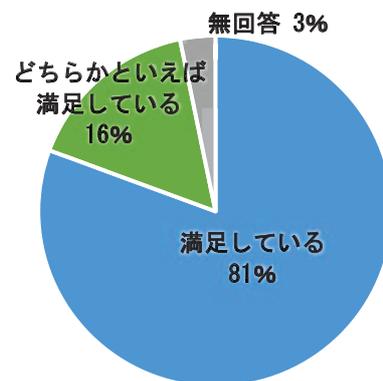
Q9.授業時間外に作業は合計してどれくらい費やしましたか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
作業していない	0	0%
1~3 時間程度	10	32%
3~5 時間程度	10	32%
5 時間以上	10	32%
無回答	1	4%
合計	31	100%



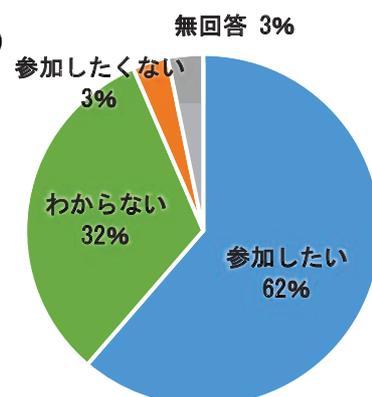
Q10.授業は全体として満足できるものでしたか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
満足している	25	81%
どちらかといえば満足している	5	16%
どちらともいえない	0	0%
あまり満足していない	0	0%
満足していない	0	0%
無回答	1	3%
合計	31	100%



Q11.このような講義があれば参加してみたいですか。(1つに○)

選択肢	回答数 (件)	構成比
参加したい	19	62%
わからない	10	32%
参加したくない	1	3%
無回答	1	3%
合計	31	100%



### 3) 今後の課題

#### 【取組み成果】

##### ●大学生による企画提案の発表

- ・ 沖縄国際大学と連携し大学2年生の2クラスに協力いただき、演習授業をとおして、まちづくりを考えるための進め方や方向性を示しながら、発表を実施することができた。

##### ●まちづくりについて継続して考える機会の創出

- ・ 10月から約2か月間の演習授業をとおして、普天間飛行場の跡地利用と周辺市街地におけるまちづくりについて、大学生が企画提案を行う機会を設けることができた。
- ・ 大学生による市民、地権者、若手の会等に対してまちづくりに関する発表を行い、大学生がまちづくりについて考える講座を継続して開催することができた。

#### 【今後の課題】

##### ●沖縄国際大学とのコラボの在り方

- ・ 引き続き、演習授業実施の際にはコンサルタントが極力出席してグループワークをサポートすることが望ましいが、役割分担については改めて検討が必要である。
- ・ 演習授業においては、企画作成に加え発表に向けた準備を十分に行うことが望ましい。

##### ●企画内容の実現に向けた検討

- ・ 参加した大学生から、企画した内容を実現させたいとの意見が挙げられたことから、次年度は企画提案発表会後に、最も実現性や独自性が高い企画発表を行ったグループに対して、企画内容の実現に向けて市と大学が連携し、支援の実現に向けた検討を行うことが望ましい。

## (2) 先進地視察会及び受入れ先勉強会等の企画・開催

### 1) 開催概要

国内先進地事例情報の収集・蓄積を図り、若手の会の議論の深化を目的として、先進地視察会及び勉強会を企画・開催した。

今年度は、「まちづくり合意形成の在り方」の参考として3か所訪問した。東京都三鷹市「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」では大規模公園における防災拠点の形成について、東京都港区「パナソニック株式会社」ではVRを活用した合意形成の手法、栃木県宇都宮市「宇都宮ライトレール株式会社」では各種交通と連携した交通のあり方について現地視察を行った。

また、早稲田大学 創造理工学部 森本章倫教授より「次世代交通を活用したまちづくり」に関する講義を受けた。

### ①視察先

月 日	視 察 先
10/16 (水)	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ (東京都三鷹市)
10/17 (木)	宇都宮ライトレール (栃木県宇都宮市)
10/18 (金)	パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社 (東京都港区)

### ②テーマ

#### 【人と自然が調和したまちづくりの手法について】

普天間飛行場跡地のまちづくりにおいては、大規模公園の在り方について地権者の理解促進を図ることが必要である。そのため、憩いの場として活用できる防災公園、また、様々な人々の生活に取り入れた自然あふれる豊かな空間が創出された地域を視察し、人と自然が調和したまちづくりの手法に関する知識を習得する。

#### 【賑わいと交流を育むウォークアブルなまちづくり】

自動車を運転できない高齢者の移動手段の確保や、車に頼らず誰もが移動しやすい公共交通のあり方は、普天間飛行場跡地のまちづくりにおいて必要である。日常生活に必要な施設を結ぶ新たな公共交通となるLRTを視察し、公共交通を補完するフィーダー交通に関する知識を習得する。

【視察先位置図】



③参加者

NO	所属	氏名
1	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	大川 正彦
2		新垣 裕輝
3		岩橋 卓
4	ねたてのまちベースミーティング	呉屋 勝広
5	宜野湾市軍用地等地主会	砂川 はるか
6	宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課	永山 拓朗
7		仲本 彩乃
8	内閣府派遣 駐留軍用地跡地利用計画プロジェクト・マネージャー	武 米治郎
9	昭和株式会社	崎山 嗣朗
10		池村 さつき
11	沖縄県 企画部 県土・跡地利用対策課	岸本 吉史
12	跡地利用推進班	福岡 美奈子

④旅程

日	時	内 容	備 考
10/16 (水)	10:00 11:10 13:30 13:45 14:45 15:00 16:30 19:00	那覇空港 集合 那覇空港 出発 羽田空港 到着 羽田空港 出発 ↓貸切バスで移動 (約1時間) 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 到着 ▼座学・施設見学 (約90分) 視察終了 ↓貸切バスで移動 (約2時間30分) 宿泊ホテル 到着	講師：三鷹市役所 スポーツと文化部芸術 文化課 大朝部長 総務防災課 井上課長 総務部危機管理 齋藤部長 座学会場： 元気創造プラザ 5F 学習室⑥
10/17 (木)	9:45 9:50 10:00 11:00 12:00 12:30 14:20 16:50 17:00 19:00 19:45	宿泊先ホテル 出発 宇都宮ライトレール株式会社 到着 ▼座学 (約60分) ・LRT乗車体験 (約60分) 視察終了 昼食 出発 ↓貸切バス移動 (約2時間30分) 早稲田大学 到着 ▼講義 (約120分) 講義 終了 ↓バス移動 (約45分) 宿泊ホテル 到着	講師： 早稲田大学 創造理工学部 森本章倫教授
10/18 (金)	8:50 9:05 9:30 11:00 11:30 13:00 15:00 16:20 19:00 19:20	宿泊先ホテル 出発 ↓徒歩移動 (約15分) サイバードーム (パナソニック) 到着 ▼座学・VR体験 (約90分) 視察終了 昼食 まちなみ視察 羽田空港 集合 羽田空港 出発 那覇空港 到着 解散	講師： パナソニック株式会社 専門市場エンジニアリング 部 鈴木主務 座学会場： 2Fカンファレンスルーム

## 2) 各視察先の概要

### ①三鷹中央防災公園・元気創造プラザ【東京都三鷹市】

#### 【概要】

三鷹市役所を含む公共施設が集約した市民センターの隣接地（約2ha）に位置し、約1.5haの防災公園と、老朽化により建替えが必要な公共施設を集約した約0.5haの市街地部分で構成されている。三鷹市とUR都市機構が「防災公園街区整備事業」の仕組みを活用し、移転した青果市場の跡地を中心に防災公園の整備を行っており、防災公園の下にはアリーナや、屋内プール等を備えた総合スポーツセンターを整備し、市街地部分と連続した建物としている。元気創造プラザは、平常時には「元気創造拠点」、災害時には災害対策本部や避難場所といった「防災拠点」としての機能を担う。

訪問先	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ
区域面積	約2.0ha（うち防災公園1.5ha）
事業手法	防災公園街区整備事業

（施設について）



**【選定理由】**

老朽化して建替えが必要となった公共施設と公園を一体化した再整備を行っており、公園の地下には総合スポーツセンターを整備している。

多様な目的で利用できる「元気創造拠点」と、災害時には一時的な避難場所や災害対策本部として機能する「防災拠点」を兼ね備えた施設は、普天間飛行場跡地で検討を進めている大規模公園の参考になると考え選定した。

**①-1. 座学**

三鷹中央防災公園と元気創造プラザの機能について、三鷹市役所スポーツと文化部大朝摂子 部長、総務部危機管理担当部長 防災部長事務取扱 斎藤浩司 課長、総務部防災課 井上新 課長より説明を受けたあと質疑応答を行った。

<b>日時</b>	令和6年10月16日(水) 15:00~17:00
<b>会場</b>	元気創造プラザ5F 学習室⑥



写真：座学の様子①



写真：座学の様子②

**【災害に備えた対応】**

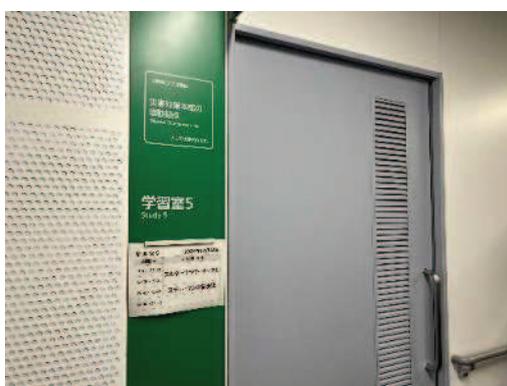
- 災害が発生した場合に備えて、消防団の消防ポンプ車で月に一回の水出し訓練や、かまどベンチを使用した炊き出し、チューブ式の水の作りなど、毎年さまざまな訓練を行っている。
- 中央防災広場には、マンホールトイレやかまどベンチといった設備も完備しており、災害用トイレは屋内プールの水が使用できる仕組みとなっている。
- 防災倉庫には、調理器具やパーゴラテント、災害で使用できる大きなテント等が入っている。
- 機能転換後の元気創造プラザには、消防や警察、自衛隊、建設業界やライフライン、やペット防災担当獣医師など多くの機関から関係者が参集される。

		機能転換	
		平常時	災害時
元気創造プラザ	5階	総合防災センター 生涯学習センター	災害対策本部 消防団指揮本部
	4階	生涯学習センター	災害対策本部 (団体機庫対応)
	3階	福祉センター	災害ボランティア センター本部
	2階	総合保健センター	災害医療対策 実施本部
	1階	子ども発達支援センター	福祉避難所
総合スポーツセンター	アリーナ、武道場、プール等	支援物資の ストックヤード等	
防災公園	憩い、レクリエーションの場	一時避難場所	

出典：UR都市機構 HP

## 【施設の特徴】

- 各部屋の入口には必ず機能転換後の役割が表示されている。これは「災害時にはこの役割の部屋になる」と日常から市民に対し周知を図るためである。
- 施設はオール電化で隣接するごみ焼却場から、電力と熱エネルギーを供給して使用できる仕組みとなっている。
- 比較的停電に強いディーゼルエンジンを配備し、自家発電で丸3日分の電力を賄うことが可能である。施設内のエレベーターは、停電時であっても最低一基は動かせる仕様になっている。
- 日本無線株式会社とSUBARUの2つの企業がネーミングライツを取得している。
- 中央防災公園の地下には総合スポーツセンターがあり、災害時には支援物資のストックヤードとして利用される。



写真：施設にある部屋の入口



写真：中央防災公園

## 【質疑応答】一部抜粋

Q1. 三鷹中央防災公園・元気創造プラザに避難できる人数についてご教示ください。

⇒約5,000人を想定している。この施設は「一時避難所」であり、数日以上を過ごす「避難所」として開設する予定はない。また、三鷹市内にある全ての避難所はペット同伴が可能となっている。

災害時には災害対策の拠点となるため、関連機関と市の職員が意思決定する場所として機能することになる。

災害時の利用を想定して建造しているが、「日常」「非常時」の使用方法について随時アップデートを行っている。

Q2. 公園の地下に総合スポーツセンター・アリーナがあるというのは斬新で驚きでした。

地下アリーナの平常時の使用方法や、イベント等に活用されているのでしょうか。

⇒総合スポーツセンターは年間約80万人が利用しており、以前の体育館と比べて競技可能面積が3倍強となっている。個人で参加できるスポーツ教室を業者に委託しているため、市民はスポーツを選択する幅が広がっている。

## ②宇都宮ライトレール【栃木県宇都宮市】

### 【概要】

日本初の「全線新設のLRT<sup>※1</sup>」として2023年8月26日に開業した。従来の路面電車よりも低床で振動や騒音を抑えた次世代の公共交通システムであり、JR宇都宮駅東口から芳賀町の工業団地まで約14.6kmの区間を結んでいる。

栃木県は1世帯あたりの車の保有台数が全国で5番目に多く、慢性的な交通渋滞が課題であるほか、人口減少や少子高齢化を背景に中心市街地の空洞化も深刻となっていることから、宇都宮市は「ネットワーク型コンパクトシティ構想」を掲げ、人が集まりやすい「拠点」の形成と、拠点と拠点間を公共交通機関で結ぶ、誰もが移動しやすいまちづくりを目指している。

#### 訪問先

宇都宮ライトレール株式会社  
(交通未来都市うつのみやオープンスクエア)

### 目指すまちの姿

ポイント  
1

#### 高齢者も元気に暮らせるように

生産人口の減少を抑えながら、高齢者が自立した生活が送れる社会を作り、全ての世代が安心して暮らせるまち

ポイント  
2

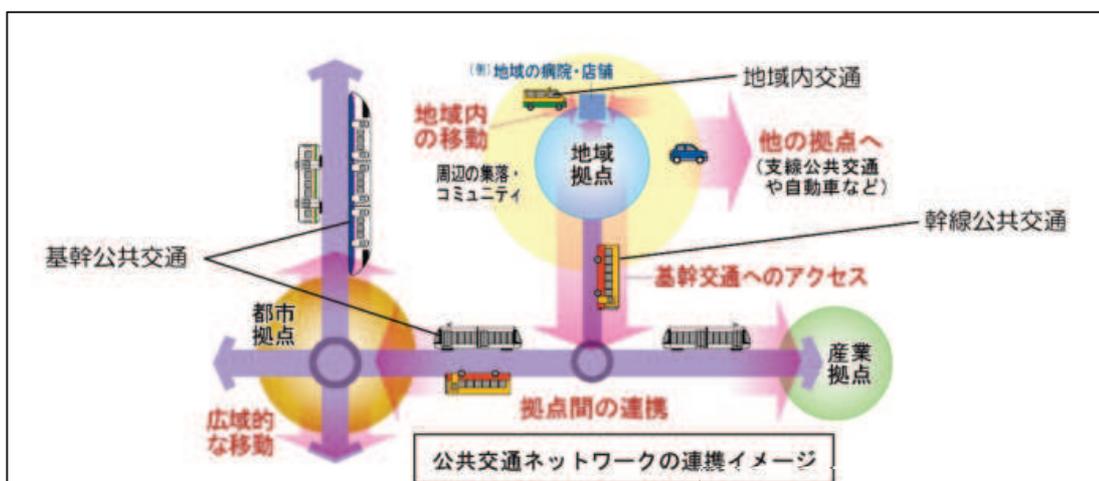
#### 消費を維持する仕組み作りを

人口が減少すると市内の消費が停滞し、地域サービスや企業活動が衰退してしまいます。人口が減っていく中でも消費を維持する仕組み作りが必要

ポイント  
3

#### 自由に移動しやすいまちづくりを

車とはとても便利ですが、運転できない人でもいろいろな公共交通で移動しやすく、暮らしやすいまちにしていこう！



出典：宇都宮市 HP

※1 LRT（次世代型路面電車システム）とは、「Light Rail Transit（ライト・レール・トランジット）」の略称で、各種交通との連携や低床式車両（LRV）の活用、軌道・停留場の改良による乗降の容易性などの面で優れた特徴がある次世代の交通システム。宇都宮市内の公共交通機関の一部で、バスや鉄道と連携して運行されている。

## 【選定理由】

宇都宮市では高齢者の移動手段の確保や、誰もが移動しやすい公共交通のあり方について、日常生活に必要な施設を結ぶ新たな公共交通としてLRTを導入している。

普天間飛行場跡地には鉄軌道も計画されていることから、地域内交通の手段の1つとして参考になると考え選定した。

### ②-1. 座学

宇都宮LRTの事業概要について、宇都宮ライトレール株式会社 黒川氏より説明を受けた後、乗車体験を行った。

日時	令和6年10月17日(木) 10:15~12:15
会場	JR宇都宮駅西口トナリエ宇都宮3F 交通未来都市うつのみやオープンスクエア



写真：宇都宮LRTのルートについて説明を受けている様子

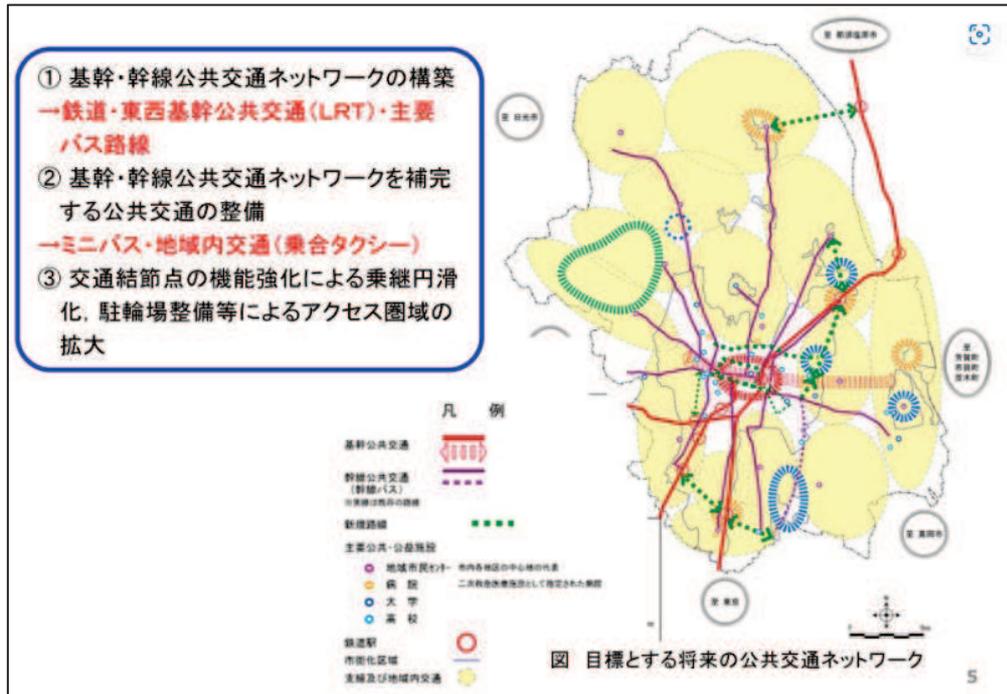


写真：座学の様子

#### 《交通網整備における4つの整備》

- ◆ 公共交通機関の整備
- ◆ バス路線の再編成
- ◆ 地域内交通の導入
- ◆ 公共交通機関の連携の強化

## ■ 目標とする将来の公共交通ネットワーク



資料：日経BP総合研究所HPより

### 【宇都宮LRTの5つの特徴】

- ①専用道路を走行するため、時間に正確である。一度に多くの人を輸送できることで、渋滞緩和に繋がる。
- ②騒音、振動が少なく、快適な乗り心地である。
- ③車両の床が低く平らで段差や隙間もほとんどないため、誰もが乗り降りしやすい構造である。
- ④他の交通手段と同じ床の高さのため、連携しやすい。
- ⑤个性的で洗練された車両デザインは、まちのシンボルとなっている。

ルートは宇都宮駅東口から、芳賀・高根沢工業団地停留所までの約15kmの距離を走行する。

最高速度は40km、スペックとして70kmの速度が可能。停留所は19か所、トランジットセンターが5か所、導入車両は3両一編成の17編成となる。車両定員数は160人で座席は50席となる。平日の通勤・通学の時間帯には約180人が乗車している。

### 【乗降、ICカードについて】

- ICカードは地域独自の連携ICカードtotraを導入している。Suicaも使用できるが、totraには地域独自のサービスがあり、交通ポイントを貯めることができる。
- 宇都宮市では高齢者外出支援事業として、70歳以上の高齢者を対象に毎年10,000ポイント付与している。この福祉ポイントの年度繰り越しはない。

- ▶ 宇都宮LRTの利用者を増やす取組みとして、市内の全小中学校・高校生へtotraの無料配布を行っている。これらの施策によって令和6年7月にはICカード利用率が93%に到達した。
- ▶ 平日の日中には運賃の上限制度があり、ICカードを利用することで上限が400円になる。また乗り継ぎ割引制度では、バスから宇都宮LRTで100円割引、バスから地域内交通で200円割引、宇都宮LRTから地域内交通で200円割引になる。

### 【質疑応答】一部抜粋

Q1. 現在LRTが走行している車線は、もとは何に利用されていたのでしょうか。

⇒道路として利用されていた車線である。車道が一車線減ることで、渋滞がひどくならないか懸念されていたが、12分おきに160人をまとめて移動できるLRTの輸送力のおかげで渋滞は多少緩和した。

また、渋滞対策については、宇都宮LRT開通に伴い周辺道路の再整備や路線バスの再編成を行っている。

Q2. 宇都宮LRTの開業に伴ってバス路線も増便されたのでしょうか。

⇒宇都宮LRTの走行と重複するバス路線は廃止したが、トランジットセンターに接続するバスの路線と、今まで運行されていなかった道路に新しく路線が開設されたためバス路線の本数は増加している。



写真：宇都宮市と沖縄県うるま市との友好都市提携をPRしたラッピング電車  
『宇都宮市・うるま市 友好都市号』



写真：宇都宮LRTの乗降口。入口や車両の繋ぎ目などに段差がない

### ③パナソニック株式会社【東京都港区】

#### 【概要】

パナソニックのVR事業は1990年に始まり、その後30年にわたり将来のさまざまな空間設計に応用できるVR技術を開発している。そして建築計画や都市インフラ整備、市街地再開発事業などのまちづくりにおいて、行政や設計者、コンサルタント、地域住民における合意形成を促す手法としてVRを用いたプロジェクト推進支援を行っている。

2003年にオープンした「汐留サイバードーム」は、VR投影装置として多くのまちづくりで活用されており、幅8.5m、高さ7.5mの半球状の大型スクリーン内に利用者が入り、プロジェクターによる映像投影で、仮想空間の中に入り込んだ没入感のある体験を実現している。

#### 訪問先

パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社  
都市・空間VR推進課 (東京都港区)

#### 【選定理由】

パナソニックのVR事業は「事業を推進するためのツール」をコンセプトに、目的に応じた空間情報を可視化するシステム構築を行っている。

図面では分かりづらい内容もVR等のシステムを活用することで、地権者・市民に対し跡地利用に関する理解を深める効果が期待でき、合意形成を図る手段の1つとして参考になると考え選定した。

#### 【イメージ共有の考え方】 近隣・一般住民とのイメージ共有 (例)

##### 【図面で説明した場合】



図面やパース、模型等での説明では具体的なイメージが持てず、概念的な理解に留まってしまいます。

##### 【VRで説明した場合】



利用者の視点で編集したVRの映像放映により、実際に訪れたときの全体像が感覚的に詳細まで理解できます。

## まちをフルサイズに体験できるサイバードーム

※2021年5月にリニューアルオープン

- 内径8.5mの球面ディスプレイで、環境計画支援VRを等身大に体感することができる。
- 歩く目線で街路樹の高さや道幅、段差などの確認ができ、鳥瞰でまちを上空から見下ろし、まちなみや建物の全景を眺めることができる。
- 複数人が同時に体感できる広視野（180°×150°）
- 高解像度の球面VRディスプレイ。
- 3Dグラス（立体画像を実現する眼鏡）でまちなみをよりリアルに体感できる。



写真：サイバードームを体験している様子

### ③-1. 座学

パナソニック株式会社 都市空間VR推進課 鈴木康史主務より、VRを活用した事例と合意形成のあり方について説明を受けた後、質疑応答を行った。

日時	令和6年10月18日（金） 9:00～11:00
会場	カンファレンスルーム（2F）



写真：座学の様子①



写真：座学の様子②

## 【VRを活用したまちづくり支援】

まちづくりにおける従来からの課題として、「合意形成がなかなか進まない」「完成後のイメージが異なる」といった手戻りが発生することがある。それは情報・イメージがうまく伝わらないといったことが要因と考えられる。

VRは「完成したまちを絵にする」ということではなく、まちが完成するまでの協議への活用や、さまざまな人々との合意形成を図るためのコミュニケーションツールとして活用できる。

## 【パナソニックVRの特徴】

- ◆ パナソニックVRは、動作が軽く誰でも操作ができる「コミュニケーションツール」として使用することを前提としているため、ソフトをインストールする必要がなく、その場ですぐ使用することが可能である。
- ◆ 顧客の課題解決・合意形成のために、最適な見せ方を工夫した機能のカスタマイズや、パソコン、スマホ、タブレットと様々なデバイスへの展開が可能である。
- ◆ VRデータは合意形成のために使用されるため、契約期間内におけるデータ修正は逐次対応している。データのみではなく、合意形成のプロセスそのものを支援している。

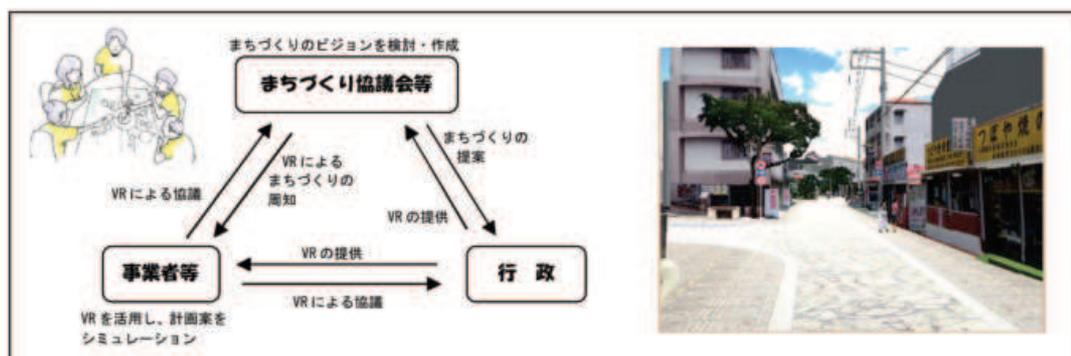
## 【活用事例の紹介】

### ① 西普天間住宅地区、普天間飛行場

眺望検討やロードサイドの賑わい検討に使用されている。また、2年前に普天間飛行場のデータの一部を使用し「バーチャル普天間未来シティ」を作成した。ウェブ上で誰でもクリックすることができ、身近なVR体感を可能にしている。「飛行場体験（知る）」「タイムスリップ（見る）」「未来まち回り（歩く）」という3つの大きなコンセプトからできており、現在も公開されている。

### ② 那覇市の景観形成検討

都市景観形成地域である首里の龍潭通りと壺屋のやちむん通りのVR画像が作成されている。VR画像を市民やまちづくり団体、事業者の方々に景観形成検討ツールとして協議などに活用していただくため、那覇市では無償提供を行っている。



出典：那覇市 HP

### ③ 宇都宮駅周辺

関係各社へのイメージPRとして活用するため、7～8年前に宇都宮LRTの東口駅側のVRを制作した。模型と違いデジタルデータは流用・拡張が簡易であるため、駅と隣接する交流拠点施設「ライトキューブ宇都宮」のデータも追加で制作を行った。

## 【ワークショップ事例の紹介】

### ① 参加型ワークショップ

デジタルデータやVR画像を活用し、まちづくりに興味を持っていただけるよう注力している。

1グループに1台のパソコンを用意し、パソコン操作を1名が担当、他の参加者は意見を述べてまちづくりをパソコン上で実行する。まちづくりの基盤やアイテム、機能はあらかじめデータとして用意されているため、これらを使用することで参加者のアイデアを簡単に形にすることができる。また、現場で意見を出すことが難しい参加者の考えも取り入れられるよう、空間にメモ機能が搭載されており、メモを活用して参加者の詳細な意見を収集することが可能である。

### ② 現地で体験ワークショップ

タブレットをその場で使用すると未来の映像が画面に現れる。そして、その場で得た感想を画面に入力すると、指定した場所に意見が表示される機能が備わっている。これにより、参加者の意見を簡単に収集、表示ができる。

## 【ヘッドマウントディスプレイ体験】

普天間飛行場跡地のVRを活用し、360度アニメーションをヘッドマウントディスプレイに投影した。VR内を歩き回ること、将来のまちの姿をリアルに見て体験することができる。



写真：ヘッドマウントディスプレイを体験している様子

**【質疑応答】 一部抜粋**

Q1. このような技術は日進月歩で新しくなると思いますが、どの程度の頻度でデータを更新しているのでしょうか。

⇒まちづくりのフェーズにもよる。ランドデザインや基本構想など、頻繁に計画が変わる場合には、年度ごとに1回ずつ更新を行っている。大きな説明会有一些の場合は年2回の更新を行うが、協議会等のタイミングに合わせて、データ更新の打診を行うこともある。

Q2. VRは説明ツールとして素晴らしいと思いますが、もっと手軽・頻繁に利用できるようにならないのでしょうか。

⇒以前に比べて価格は下がってきているが、VRは大量に販売できるというものではなく、オーダーメイドで案件のひとつひとつを制作している。

VRで現況を制作することは、計画策定時と同程度の費用が発生する。この費用面が課題であることから、国土交通省では都市DXという3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化の取組みを進めており、各自治体の現況データのデジタル化を進めている。今後、オープンデータ化されたデータをもとにVRが制作できるようになれば、費用も下がってくると考えられる。

Q3. 今後、国交省がインフラDX等で基盤データを整備し、普天間飛行場跡地利用計画に「周辺市街地に与える影響」等の物流・人流の変化をシミュレーションすることも可能になるのでしょうか。

⇒普天間飛行場跡地をベースに3Dを用い、車や人の流れといった簡単なシミュレーションを実行することができる。現在のVRでも簡単な検証はできるが、シミュレーション結果として提出する本格的なものになる場合、専門のコンサルタント業者の協力が必要となる。

### 3) 受入れ先勉強会

宇都宮LRTが開業に至るまでの経緯や、次世代交通システムを活用した交通のあり方について、早稲田大学 森本章倫 教授より説明を受けた後、質疑応答を行った。

日時	令和6年10月17日(木) 17:00~18:30
会場	早稲田大学 西早稲田キャンパス 51号館
テーマ	次世代交通を活用したまちづくり
講師	早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 森本章倫 教授



写真：勉強会の様子①



写真：勉強会の様子②

#### 【LRT構想の経緯】

宇都宮市は昭和40年代に工業団地が建設されると交通渋滞が発生するようになった。渋滞が激しい時は、市内から工業団地までの移動に車で最大2時間程度要することから、市街地開発組合が新交通システム導入に向けた取組みを始めた。

栃木県と宇都宮市が一体となり新交通システムに関するプロジェクトが動きはじめたが、時代・時節で様々な出来事があり、議論に長い時間がかかったものの、平成21年に、第2次宇都宮市都市計画マスタープランで「LRTの導入を図る」として市民に提示された。

#### 【宇都宮市のコンセプト】

できるだけ魅力的な公共交通空間をつくり、自由に歩けるまちとなる「公共交通の便利な場所」と、郊外については「将来的に自動運転で低密な場所を循環し、高齢者も気軽に移動ができるまち」となる、ネットワーク型コンパクトシティの形成をコンセプトとして創り上げた。

## 【地域内交通】

地域住民が主体となり、ルートや料金設定を行い、その計画を行政に提案して交通運行を実現している。全体にかかる費用のうち3分の2は市が負担し、残り3分の1は地域が運賃収入等で賄っている。将来的に自動運転で人件費の削減が可能になれば、かなりの頻度で地区内を循環できると考えている。



写真：宇都宮市内の他地域にさきがけ、定時定路方式を採用した「清原さきがけ号」

- 地域住民で組織された「きよはら地域内公共交通運営協議会」が運営する地域内交通。
  - 平成20年1月15日から試験運転を開始し、ダイヤ、運行ルートなどの見直しを経て、平成20年8月1日から本格運行を開始している。
- 《運行方式・本数》定時定路方式 1日7便  
《料金》1回100円、1か月定期券2,000円(税込)



## 【沿線の人口増加】

人口は平成24年～令和3年の10年間で、宇都宮市全体では約1%のみの増加であるが、沿線では約7%増加している。これは、宇都宮LRT開業が発表された平成27年頃からマンション建設が増加したためである。

宇都宮市は平成30年をピークに人口が約8,500人減少しているが、沿線では約5,000人増加している。「魅力的なまちをつくと人が集まる」、「安定した輸送システムの提供はライフスタイルの提供と同意である」というコンパクトシティ構想の効果である。

商業施設の土地の値段について、沿線では約6%、住宅の場合地価は約11%上昇している。交通の仕組みを変えることによって、効果が広がっているものと推測される。

## 【未来のまちづくりとは】

携帯電話会社の基地局データを使用し、高精度でリアルタイムに人の流れやターゲット層を把握することができる。大学の最先端研究では、宇都宮市の現実の空間データを使用したサイバー空間宇都宮市をつくっている。

未来のまちづくりには、「未来のまちをどのように伝えるのか」という市民との合意形成が重要である。

また、未来について説明する際には、紙の図面ではなくVRを活用し、市民に分かりやすくなるよう工夫している。VRには「市民との対話ツール」としての機能を期待しており、未来について皆が語りやすくなることで、合意形成が図りやすくなると思う。

## 【質疑応答】 一部抜粋

### Q1. LRTとモノレールの費用の違いについてご教示ください。

⇒LRTにかかる費用はおよそ1kmあたり約30億円以上と言われている。宇都宮市の場合はライトライン専用の橋も建設したため約680億円かかった。モノレールは1km約100億円かかる。地下鉄は約200～約300億円で、LRTは地下鉄に比べると約10分の1、モノレールの約3分の1となる。

### Q2. 「日本初」と「75年ぶり」の2つを聞きますがその違いはなんですか。

⇒LRTという乗り物は国内2例目である。平成18年に富山ライトレールが開業し、令和5年には2つ目として宇都宮ライトラインが開通した。日本で全線が新設されたLRTは、宇都宮市が初めての事例だが、広い意味で「路面電車」と捉えると、新設は75年ぶりとなる。

LRTという言葉はアメリカが発祥で、ヨーロッパではトラムと呼び、通常の路面電車とあまり区別をしていない。路面電車は広島電鉄や鹿児島など日本各地で走っている。

### Q3. 将来、利用者が増えた場合は3両編成から、4～5両編成になることはありますか。

⇒日本の場合、法律を改正しないと車両を増やすことは難しい。法律では道路上を走行する路面電車は最大30mまでと決まっている。宇都宮LRTの車両は29.8mあるため、今以上の長さにすることはできない。

利用者が増えた場合の対応としては、運行ピッチを増やすことになる。今は6分間隔の運行だが、3分間隔に変更した場合、現在の倍の人数を運ぶことができる。

## 4) 視察参加者の感想（一部抜粋）

### ①三鷹中央防災公園・元気創造プラザ

- 青果市場の広大な土地を、地主企業の厚意で市に譲渡され実現した施設で、市民の憩いの場であり、また行政（福祉関係）が入り、平常時の業務と災害時の際は防災施設に転換するという、うまく考えられた施設だと思った。また、隣接するごみ焼却施設から発せられる熱エネルギーを有効活用し、電気や温水プールに使用していることはよいと思う。普天間飛行場跡地にも大規模公園は不可欠なので、運営面での参考になった。
- 普天間飛行場跡地のまちづくりでも様々な活用ができる地下施設を検討してもよいと思った。
- 防災機能を兼ね備えた大規模公園として、同公園のような災害時の防災拠点はもちろんのこと、非災害時の効率的な活用を検討していきたい。

## ②宇都宮ライトレール

- コンパクトシティ構想から、令和5年の開業まで年数がかかったものの、当初予定していた利用者数を大きく上回り、成功例だと感じた。宇都宮ライトレールだけではなく沿線から離れたエリアの市民にも交通機関などの配慮がされており、高齢者に対するＩＣカードのポイント付加なども利用者が増加する要因と思う。普天間飛行場跡地とは立地条件等が異なるが、市民の足となる鉄軌道は不可欠なため、参考になる点は多くあった。
- 普天間飛行場の跡地利用に求められる「定時制公共交通」「地域内交通」「フィーダー交通」などの周辺市街地を含めた新軌道系交通として検討していきたい。
- 森本教授の研究資料等でＮＴＴデータ（携帯電話ＧＰＳ情報）機能等を集約した、人々の動きを分析する資料に驚いた。普天間飛行場跡地のまちづくりにおいても現代社会の文明の利器を大いに活用すべきである。

## ③パナソニック株式会社

- ＶＲは合意形成に活用できると思った。地権者や市民にもヘッドマウントディスプレイ等を体験してもらえれば、未来の普天間飛行場跡地が想像しやすくなる感じた。
- 日本が世界に誇るパナソニック株式会社の技術を駆使したサイバードーム、ヘッドマウントディスプレイは、２次元の紙資料を３次元立体空間へと変換し情報の可視化を実現している。普天間飛行場の跡地における合意形成分野において、より効果のあるツールになると感じた。言葉での説明や紙資料及びパワーポイント等の現状のツールを用いた説明をはるかに超えており、老若男女が分かりやすく理解できるツールであり、大いに活用すべきである。
- サイバードームの活用で、空間を肌で実感することができた。一般市民の皆さんの、まちづくりについての意見を引き出すために、未来の市街地を理解してもらえるＶＲは活用できると思う。

## 5) 取組み成果と今後の課題

### 【取組み成果】

#### ●大規模公園に導入する機能、施設の可能性

- ・地下空間の有効活用方法、有事の際における公園施設の機能転換等、今後大規模公園に導入する機能の具体的な検討を行うにあたっての考え方を学ぶことができた。

#### ●周辺市街地を含めた地域内交通の重要性

- ・次世代型交通の導入により地域の交通環境の改善や地域全体の活性化に繋がった事例を視察することで、普天間飛行場跡地のまちづくりにおける周辺市街地を含めた地域内交通の有効性について学ぶことができた。

#### ●VRを活用した意向醸成の有効性

- ・VR技術を用いた普天間飛行場跡地利用計画を実際に体験することで、資料や図面の説明だけでは伝わりづらい具体的なイメージが容易に理解でき、今後の意向醸成におけるVRの有効性について学ぶことができた。

### 【今後の課題】

#### ●VR等の技術を用いた意向醸成のあり方

- ・令和9年度予定の「全体計画のとりまとめ」に向けた意向醸成活動を進めていく必要があることから、本視察で体験したVRのシステムを活用した勉強会の開催を検討する。

### (3) イベントの企画・開催

#### 1) 開催概要

普天間飛行場の跡地利用計画に関する内容、将来の跡地のまちづくりを考える取組みを紹介し、広く市民に対して跡地利用計画の興味を促すことを目的としてパネル展を開催した。

#### 【開催概要】

○期 間：令和6年11月1日（金）～11月8日（金）

○内 容：サンエー宜野湾コンベンションシティ内はごろもコートにて、「まちづくりパネル展」を開催し、下記取組みの紹介パネルを展示した。

- ① 若手の会活動紹介（パネル2枚）
- ② 普天間飛行場の跡地利用計画紹介（パネル6枚）
- ③ 小学生跡地のまちづくりイラスト（パネル10枚）

#### 【来場者数】

日時 時間	11月1日	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	11月7日	11月8日	合計
	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
9～10		22	18	6	18	10	21	20	115
10～11		52	40	22	26	13	35	29	217
11～12		84	50	72	60	15	53	69	403
12～13								104	104
13～14	25	83	91	115	79	38	82	63	576
14～15	41	95	69	159	64	15	34		477
15～16	32	95	72	79	58	24	38		398
16～17	38	115	45	65	73	7	55		398
合計	136	546	385	518	378	122	318	285	2,688

※グレー着色：未計測

#### 【アンケート回答者数】

11月1日	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	11月7日	11月8日	合計
金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
24	49	36	13	28	9	23	19	201

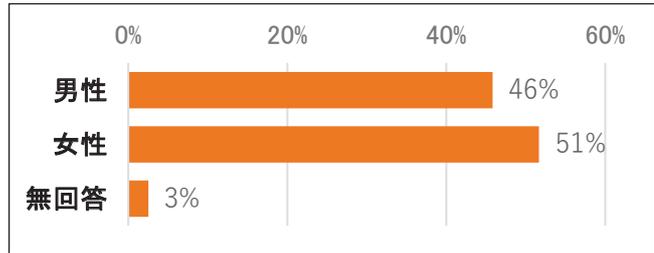




## 2) アンケート結果

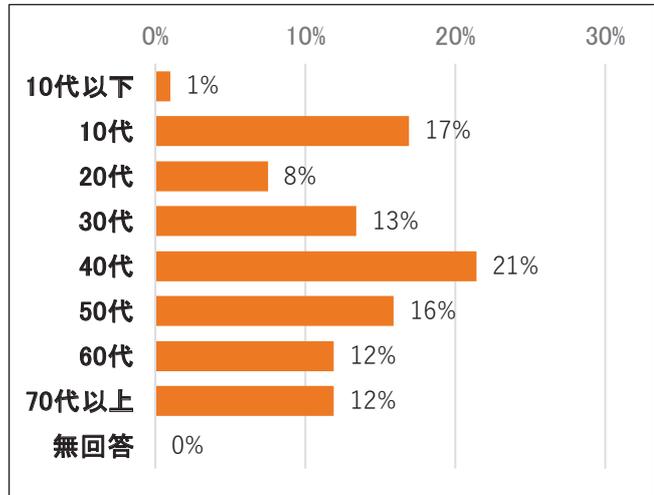
Q1. あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
男性	92	46
女性	104	51
無回答	5	3
計	201	100



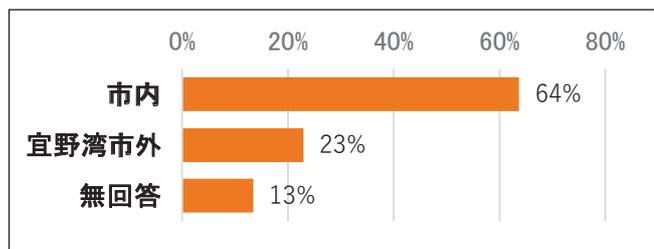
Q2. あなたの年齢を教えてください。

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
10代以下	2	1
10代	34	17
20代	15	8
30代	27	13
40代	43	21
50代	32	16
60代	24	12
70代以上	24	12
無回答	0	0
計	201	100



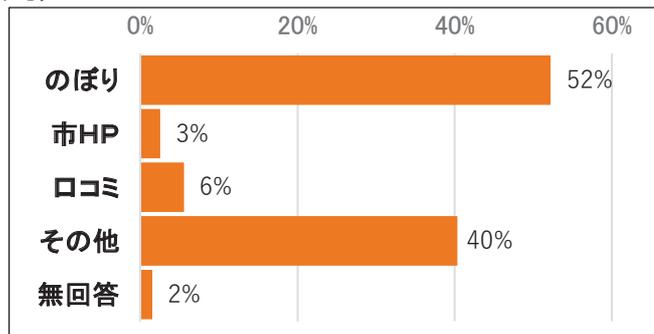
Q3. あなたの住まいを教えてください。

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
市内	128	64
宜野湾市外	46	23
無回答	27	13
計	201	100



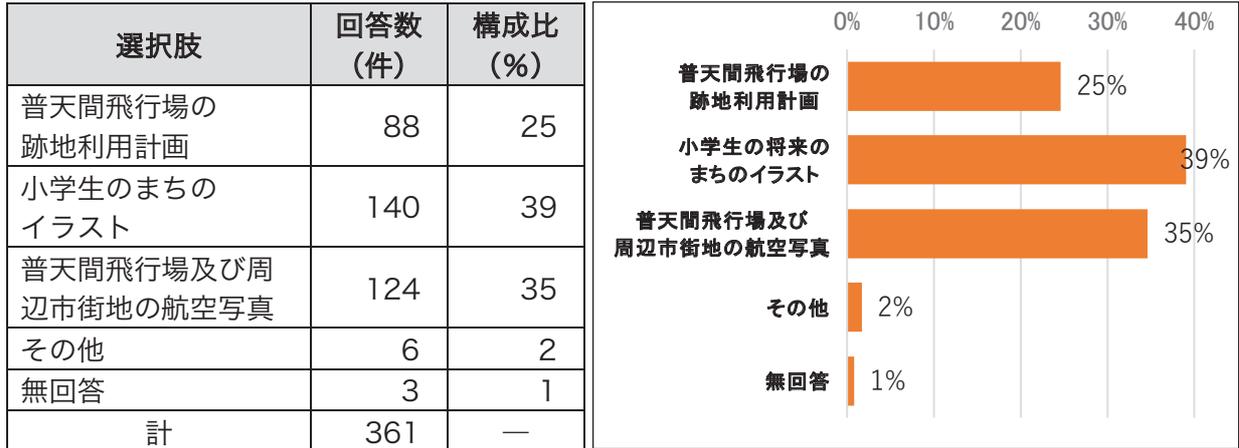
Q4. 情報入手先を教えてください。(複数回答可)

選択肢	回答数	構成比 (%)
のぼりを見て	105	52
市ホームページ	5	3
口コミ	11	6
その他	81	40
無回答	3	2
計	205	—



「その他」と回答した方は、「友達」や「通りがかり」、「買い物」であった。

Q5. 今回のパネル展で良かったと思うパネルを教えてください。（複数回答可）



Q6. 今回のパネル展で普天間飛行場返還後のまちづくりに興味を持ってましたか。



Q7. 跡地利用に関するご意見等（一部）

- ・ 普天間飛行場内にある自然をそのまま保全する取組みをしてほしい。
- ・ 普天間飛行場の大きさをあらためて知り、驚いている。
- ・ ここまで普天間飛行場返還に向けて進んでいると知らなかった。
- ・ 小学生のイラストにSDGsを意識したのがあって良かった。
- ・ 普天間飛行場返還後のまちづくりを考えるきっかけになった。
- ・ 普天間飛行場返還後のスケジュールを大まかに提示してほしい。
- ・ 子ども達が成長してまちづくりの主役となることに期待がもてた。
- ・ 航空写真で全体を見ながらまちづくりについて考えることができた。
- ・ 良いアイデアをもっとたくさん出せるように、このようなイベントがあるとよい。
- ・ 子ども達が考えやすい取組みと展示で、より具体的に普天間飛行場跡地について考えるきっかけになった。
- ・ 観光特化で企業を誘致して、アミューズメントを強化したほうがよいと感じた。

### 3) 取組み成果と今後の課題

#### 【取組み成果】

##### ●展示スペースへの多くの人の誘導

- ・展示スペースの床に宜野湾市全体の航空写真を敷くことで、3階から来店した方の目にも留まり、パネル展示会場への多くの人の誘導とパネル観覧に繋げることができた。

##### ●来場者の普天間飛行場跡地利用計画に対する興味・関心の向上

- ・普天間飛行場の跡地利用計画について本パネル展で初めて知ったという方に対する興味・関心を促すことができた。

#### 【今後の課題】

##### ●更なる情報の充実

- ・パネルでの情報発信のほかに、巨大航空写真に普天間飛行場の大きさや滑走路の距離を記載するなどの情報を盛り込むことで、普天間飛行場の規模を体感できるようにする等、更なる情報の充実を図り、多世代の方に対して興味・関心を促す工夫が必要となる。

##### ●アンケート回収率の向上

- ・多数の来場者がパネルを観覧している一方で、アンケートの回答数が少ない結果であり、アンケート回答に負担を感じる方が多いことが理由と考えられる。そのため、今後はアンケート回収率向上に向けて、シールで簡単に回答できるようにするなどの工夫が必要である。

## (4) 情報誌「まち未来だより」の作成

### 1) 取組み概要

市民に対し、普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組み内容等について情報を発信し、普天間飛行場跡地利用への関心を高めることを目的として作成する。

### 2) 情報発信の内容

回数	発行時期	主な掲載内容
16	(令和7年3月発行) 市報(4ページ)	○報告事項 1. パネル展の開催報告 2. 市内小学校に向けた出前講座の概要報告 3. 先進地視察会の概要報告 4. まちづくり講座の概要報告

### 3) 取組み成果と今後の課題

#### 【取組み成果】

##### ●跡地利用のまちづくり意向醸成に向けた取組みに関する情報発信

- ・市民のまちづくり意向醸成を目的に実施した「まちづくり講座」「パネル展」等に関する内容等を掲載し、市報ぎのわん(4ページ分)として全世帯へ発信することができた。

#### 【今後の課題】

##### ●市民が跡地利用のまちづくりに興味・関心を持つための工夫

- ・掲載した取組みや、次回の予定について市民の興味・関心を促すために、QRコードなどを活用して広く情報を発信する工夫が必要である。



## 4. まちづくり講座を開催しました！

市民、学生に対して、普天間飛行場跡地利用に関する学習の機会を提供するとともに、跡地利用に対する関心を高め、合意形成活動への積極的参加を促すことを目的として、まちづくり人材育成のための「まちづくり講座」を開催しました。

### 沖縄国際大学との連携

対象者：沖縄国際大学地域行政学科2年生計33名（2クラス6グループ）

対象者：沖縄国際大学との連携による価値の高いまちづくりのすめ

大学と連携する狙い：①まちづくりについて知ってもらう

②地域住民等との交流（外部へのインタビュー等の経験取得）

③グループでのプロジェクト企画作成のプロセスを学ぶ

今回の講座では、普天間飛行場の跡地利用全体を検討するのではなく、階段跡における普天間飛行場を見逃したまちづくりのスタートとして、「周辺市街地における身近な地域まちづくり」を対象とする。

普天間飛行場跡地利用の事例に向け、跡地利用で目指す取組みを今から周辺市街地で実証・実践し、返還後の跡地における実現に向けた課題を明らかにしていくと共に、周辺市街地で跡地利用を見逃した新しいまちづくりの文化醸成を図る。

### 各グループで考えた内容

- |  |  |
|--|--|
| <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> 賑わいのある集約型都市づくり</p> <p><b>&lt;企画内容&gt;</b> 防災に関する知識を習得しながらハザードマップを歩く防災ウォークの開催</p> | <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> 賑わいのある集約型都市づくり</p> <p><b>&lt;企画内容&gt;</b> フリーマーケットと伝統芸能の大橋引きやエイサーの開催</p> |
| <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> 地域資源を活かした地区イベントで交通渋滞緩和</p> <p><b>&lt;企画内容&gt;</b> 沖縄国際大学・琉球大学の合同学園祭の開催</p>       | <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> 賑わいのある集約型都市づくり</p> <p><b>&lt;企画内容&gt;</b> エイサーの演舞を実施</p>                 |
| <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> 地域資源を活かした都市づくり</p> <p><b>&lt;企画内容&gt;</b> タイモに関するクイズ大会</p>                       | <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> 賑わいのある集約型都市づくり</p> <p><b>&lt;企画内容&gt;</b> 地元特産品の販売</p>                   |



結果：参加者から講義の中で普天間飛行場の跡地まちづくりを知り、地域の課題や現状を改めて理解し、それを踏まえて企画内容を考えることができたとの感想がありました。今後もまちづくり講座を通して若い世代への普天間飛行場跡地利用に関する学習の機会の提供を行っていきます。

基地政策課 まち未来課  
お問い合わせ 電話 098-893-4401（直通）  
FAX 098-892-7022  
許可はここに  
普天間飛行場跡地利用計画の  
https://www.pref.okinawa.jp/tulanna.html

## 3. 先進地視察会に行ってきました！

普天間飛行場跡地のまちづくりの参考とするため、情報収集・蓄積を図ることを目的として県外先進事例の視察と合同勉強会を行いました。視察のテーマは「人と自然が調和したまちづくりの手法について」と「賑わいと交流を育むウォーカーカブルなまちづくり」です。

### 視察先

<p>10/16(水) 三鷹中央防災公園 元気創遊プラザ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央防災広場にはマンホールトイレや、かまどベンチといった設備も完備。</li> <li>災害トイレは屋内プールの水が使用できる仕組み。</li> <li>防災倉庫には調理器具やパークラント、災害で使用できる大きなプリントを格納。</li> </ul>	<p>10/17(木) 宇都宮ライトレール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本初の「全線新設のLRT」として2023年8月26日に開業。</li> <li>従来の踏切帯車よりも低床で騒動や騒音を抑えた次世代の公共交通システム。</li> <li>LRT開通を契機した2015年からマンションの建設が進み沿線の人口が増加。</li> </ul>
<p>10/18(金) パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パナソニックのVR事業は1990年に始まり、将来のさまざまな空間設計に活用できるVR技術を開発。</li> <li>2003年にオープンした「沙羅サイバードーム」は、VR投影装置として多くのまちづくりで活用。</li> </ul>	<p>10/19(土) 普天間飛行場跡地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>跡地利用の現状や今後の計画について説明。</li> <li>市民の意見や要望を聴き、今後のまちづくりについて話し合う。</li> </ul>

### 合同勉強会

テーマ：次世代交通を活用したまちづくり  
次世代交通について、市民等に計画段階からまちづくりに参加してもらうため、VRを活用した合意形成に関する合同勉強会を開催しました。VRは「市民との対話ツール」として優れた機能があり、未来について皆がより話しやすい環境になることが期待されています。



結果：参加者からは、視察会を通して普天間飛行場の跡地のまちづくりを考えるうえでの参考となる点が多々あったとの感想がありました。今後視察を通して先進地のまちを実際に見ていただき、まちづくりの情報の収集、蓄積に努めます。

図：「まち未来だより 3P」

図：「まち未来だより 4P」